

基本計画の名称：川西市中心市街地活性化基本計画

作成主体：兵庫県川西市

計画期間：平成27年4月～平成32年3月まで（5年0ヶ月）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 川西市の概要

(1) 地勢

本市は兵庫県の南東部に位置し、兵庫県の伊丹市、宝塚市、猪名川町、大阪府の池田市、箕面市、豊能町、能勢町の4市3町に接している。市役所からの直線距離では大阪市のJR大阪駅まで約16km、神戸市のJR三宮駅まで約27kmに位置する大都市近郊の良好な住宅都市である。

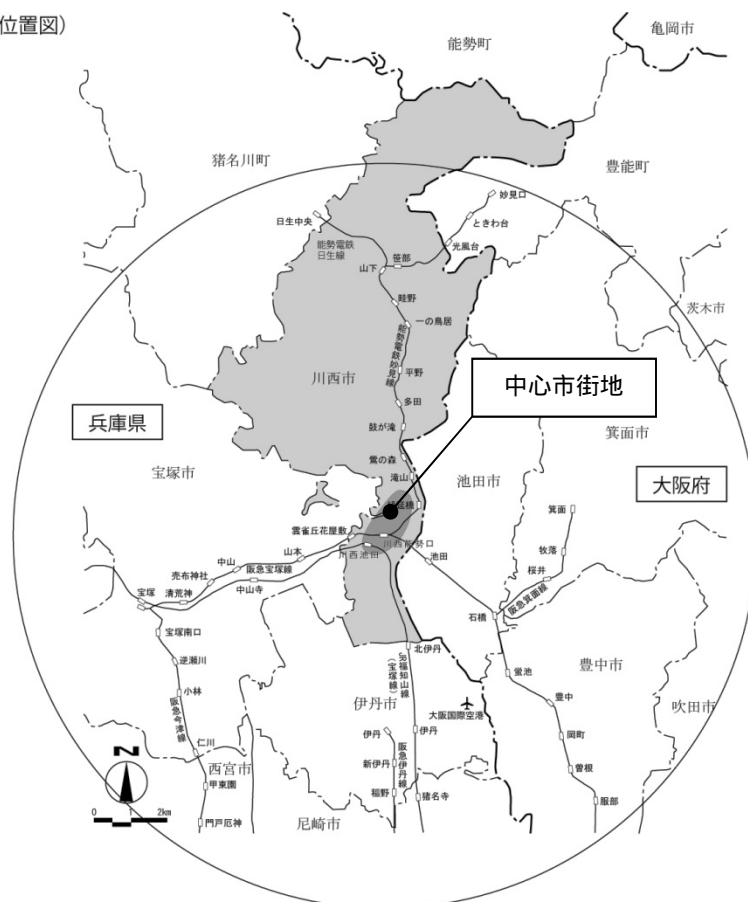
市域は、面積が53.44km²で、東西方向に約6.5km、南北方向に約15.0kmと南北に細長い地形になっており、市の南部は、猪名川右岸に発達する段丘面と猪名川沿いの低地（沖積平野）から、北部は、多田・山下の二つの盆地とそれを取り巻く丘陵からなっている。

また、一庫付近から北側の地域は北摂連山系に属し、標高660mの妙見山をはじめ、400m以上の標高をもつ山が分布し、その一部は猪名川渓谷県立自然公園に指定されている。



川西市中心市街地の様子

(位置図)



川西市中心市街地の位置

(2) 歴史

本市の村落としての機能は、1400～2000年前の弥生・古墳時代に、市の南部に集落が形成されたことにはじまり、中でも加茂遺跡は、弥生時代中頃から畿内でも有数の大集落へと成長していった。10世紀後半、源満仲が多田盆地に移り住み、清和源氏発展の基礎を創った。天禄元年(970年)には、多田院を建立し、現在多田神社として多くの参拝者を集めている。平安時代にはじまる多田銀銅山は、寛文年間にはその最盛期を迎え、特に山下町や下財屋敷が栄えた。徳川体制下の所領配置は時期によって相違はあるが、中・北部の多田地域、東谷地域のほとんどは直領で、その中に三か村だけ多田院社領として存在していたのが特色である。これに対して南部の川西地域は、大阪城代及び大阪定番代が領置する地域として17・18世紀を経過し、19世紀に入って久代村と久代新田を除く他の村々は、すべて一橋徳川家領に編入された。

市制町村制の発布を経て、明治22年4月に川西村・多田村・東谷村が発足した。南部の川西村では、明治26年に摂津鉄道(現在のJR福知山線)が池田(現在の川西市小花)まで敷設され、その後、同30年に阪鶴鉄道(現在のJR福知山線)が買収した。明治43年には箕面有馬電気軌道(現在の阪急電鉄宝塚線)が開通し、さらに大正2年には能勢電気軌道(現在の能勢電鉄妙見線)が開通し、能勢口駅が設けられた。これら交通機関の発達に伴い、川西村は次第に発達し、大正14年10月には町制を施行、そして昭和29年8月1日、町村合併促進法に基づき、川西町、多田村、東谷村が合併して市制を施行し、今の川西市が誕生した。



多田神社



源満仲公像

(3) 自然

本市は、南部段丘崖緑地や大規模住宅団地周辺の豊かな緑、一庫ダム周辺の北摂連山系の山並みや、水面に映える緑豊かな知明湖の一带など、自然資源に恵まれた都市である。とりわけ、本市を南北に縦貫する一級河川猪名川は、猪名川町の山岳地帯に源を発し、田尻川、一庫大路次川、塩川、芋生川、最明寺川などを合流して大阪湾に注いでおり、まちのシンボルとなっている。



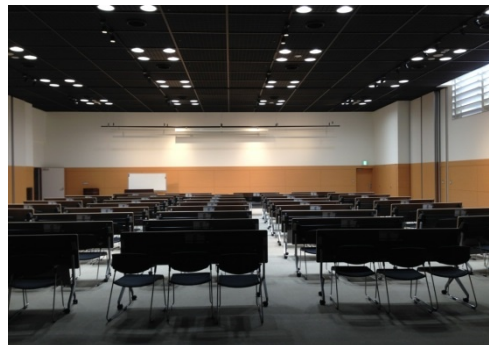
知明湖

(4) 文化

本市には、アステホールや文化会館、みつなかホール、郷土館、ミュージアムポアール、ギャラリー川西などの施設があり、優れた芸術作品の鑑賞の場として、また活発な芸術・文化活動の場として多くの市民に利用されている。



みつなかホール



アステホール

(5) 観光

本市には、清和源氏発祥の地である多田院（多田神社）をはじめ、満願寺や頼光寺、小童寺といった源氏ゆかりのある社寺や、黒川の自然豊かな日本一と言われる里山など、観光資源として魅力的なものが数多くある。また、源氏まつりや猪名川花火大会等のイベントを開催することにより、数多くの人々が来街している。

(6) 大阪、神戸などの大都市近郊のベッドタウンとしての良好な住宅都市の形成

本市には、秩序ある市街地を形成し、都市の健全な発展をめざして、都市計画法などの法令を適正に運用するとともに、『川西方式』といわれる「開発行為指導要綱」に基づき、開発の適正な規制・誘導を行ってきた。その結果、良好な住宅環境の広がる大阪、神戸などの大都市近郊のベッドタウンとして、発展を遂げている。

[2] 中心市街地の概況

(1) 中心市街地の概況

本市の中心市街地は、阪急電鉄宝塚線、能勢電鉄妙見線、ＪＲ福知山線、阪急バスなどの公共交通機関の発達とともに、大きな発展を遂げてきており、昭和 48 年には「駅周辺都市整備計画基本構想」を策定し、全国に先がけて市街地再開発事業などを積極的に実施したほか、阪急電鉄・能勢電鉄の連続立体交差事業、川西猪名川線・国道 173 号などの南北幹線道路整備事業を実施し、駅周辺の基盤整備や交通利便性が飛躍的に向上した。

また、産業としては、近年まで農業に加え、皮革工業や繊維染色工業が盛んで、機械・金属、化学工業なども発達していたが、皮革工業や繊維染色工業は姿を消し、産業構造の変化に伴い、現在では卸・小売業、飲食などをはじめとするサービス業、製造業、建設業などが全事業所の大半を占めるに至っている。そして、市の玄関口として都市機能の集積が進み、川西能勢口駅周辺にはアステ川西、阪急百貨店などの大型商業施設が営業を開始したほか、業務ビル、高層マンションなどが立ち並ぶなど、賑わいを見せた。

しかしながら、長引く景気の低迷や近隣地域への大型商業施設の進出などの影響を受け、中心市街地の衰退が進行し、その活力が低下したことから、平成 22 年度に「川西市中心市街地活性化基本計画」が「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく内閣総理大臣の認定を受け、38 の活性化事業を推進してきた。

中心市街地内の主な大規模小売店舗等

施設名	開店年月	売場面積
ジャンボスクエア川西	昭和 49 年 4 月	8,066 m ²
パルティ川西	昭和 60 年 6 月	1,048 m ²
アステ川西	平成元年 4 月	28,545 m ²
モザイクボックス	平成 8 年 4 月	12,084 m ²
ベルフローラかわにし イースト	平成 11 年 11 月	2,950 m ²
ベルフローラかわにし ウェスト	平成 11 年 11 月	2,560 m ²
イオン リカー＆ビューティー川西店	平成 25 年 10 月	3,274 m ²

一方、駅周辺都市整備計画基本構想区域(約 38ha)の北に隣接する約 22.3ha の中央北地区(以下、「キセラ川西」という。)では、都市基盤(中央公園やせせらぎ遊歩道(歩行者専用道路)など)を整備し、福祉・医療・保健・文化ホール等複合施設、住宅施設、医療施設及び大規模集客施設などの都市機能が集積する次世代型複合都市をめざしたまちづくりを進めている。

キセラ川西における事業は、平成 10 年度に「住宅街区整理事業」を都市計画決定し、同年に設立した川西市中央北地区住宅街区整備準備組合が中心となってまちづくりを進めて

きた。しかし、計画に基づくまちづくりの実現に向けた進展はなく、平成 15 年度から、地区内に集積した皮革工場から排水される汚水のために設置された火打前処理場の閉鎖をめざした「皮革工場の転廃業事業」を実施し、平成 17 年度に前処理場の操業を停止したことにより、本市の皮革工場の歴史は幕を閉じ、新たな土地利用が模索された。

その後、「土地利用基本構想（平成 20 年度）」及び「土地利用基本計画素案（平成 21 年度）」の策定などを経て、現在の土地利用計画の原型となる「事業計画決定（平成 23 年度）」となった。さらに、平成 23 年度に「中央北地区のまちづくり方針」を策定し、将来の都市像を住宅、医療、集客及び公共施設などの多様な機能が中央公園やせせらぎ遊歩道などの都市施設と連携する「次世代型複合都市」とした。そして、それを実現する手段として、現在、キセラ川西では、土地区画整理事業をベースに、「民間活力の導入（PFI 事業）」と「低炭素まちづくり計画」を活用してまちづくりを進めている。

（２）中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況の分析及びその有効活用の方法の検討

歴史的・文化的資源

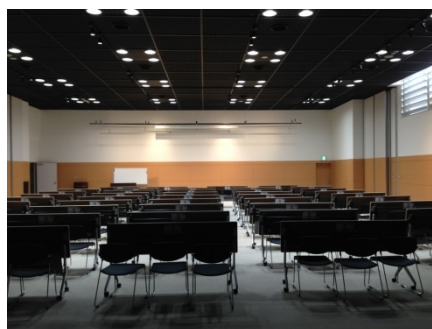
中心市街地周辺には、古くからの史跡である加茂遺跡や勝福寺古墳が存在している。また、兵庫県の指定文化財の天然記念物である大クス（樹齢約 500 年）があるほか、市民に親しまれている小戸神社などが分布しており、まちなかの緑の空間として、居住者や市民の憩いの場となっている。

さらに、中心市街地には芸術・文化を楽しみ、にぎわいを創出する施設が多く集積しており、音楽コンサートなどで利用されるみつなかホール、寄席や講演会などで利用されるアステホール、市民の文化作品の発表の場などに利用されるギャラリーかわにしなどが点在している。

中心市街地の活性化にあたっては、これらの史跡や文化施設と商業施設などを結び、回遊・滞留するためのネットワークの構築や情報発信を通じて、市民や来街者が歴史に触れることや芸術・文化に参加することができる機会を増やすなど、当地区の歴史的・文化的資源を積極的に活用していく。



みつなかホール



アステホール

景観資源

中心市街地とその周辺には、一級河川の猪名川が流れており、身近な場所で自然を感じられる資源が存在している。

こうした景観資源を活かすべく、都市計画マスタープランでは、川西能勢口駅周辺において、都市景観形成条例に基づき、市の表玄関にふさわしい都市景観の創造をめざすとともに、キセラ川西において、駅周辺への快適な歩行者動線となる「せせらぎ遊歩道」や「中央公園」の整備による良好な景観形成をめざすことが示されている。

また、本市は、平成 26 年 8 月 1 日に景観行政団体となり、平成 26 年度には、景観計画を策定し、魅力的な景観形成を推進している。

中心市街地の活性化にあたっては、親水性空間を活用して自然に触れることができる環境の整備など、当地区の景観資源を積極的に活用していく。



中央公園のイメージ



せせらぎ遊歩道のイメージ

社会資本・産業資源

中心市街地は阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線川西能勢口駅、JR福知山線川西池田駅が近接していることから利便性に優れ、これらの駅は路線バスの発着点でもあることから、多くの通勤・通学者や買い物客が訪れている。また、中心市街地には公共施設が広く分布しており、市役所、アステ市民プラザ、みつなかホール、保健センター、文化会館・中央公民館、中央図書館、総合体育館、ふれあいプラザ、市民温水プール、パレットかわにしなどがある。

特に、川西能勢口駅周辺地区では、これまで市街地再開発事業や連続立体交差事業などによる新しいまちづくりを進め、アステ川西や阪急百貨店などの大型商業施設や業務ビル、高層マンションが集積する地区となっている。

中心市街地の活性化にあたっては、これらの公共施設、商業施設などを結び、回遊・滞留するためのネットワークを構築することによって、魅力的でにぎわいのあるまちにするなど、当地区の社会資本・産業資源を積極的に活用していく。

[3] 中心市街地の現状に関する統計的なデータの把握・分析

(1) 人口動態

【現状分析】

人口

- ・本市全体の人口は横ばいの傾向にあり、中心市街地の人口も同様の傾向にある。

世帯

- ・中心市街地における世帯数は、平成 7 年度から比べると増加傾向にあり、世帯人員は、平成 7 年度に比べると減少傾向にある。

年齢別人口

- ・中心市街地の高齢化率は、上昇傾向にある。

人口の社会増減（転入者数から転出者数を引いた数）

- ・中心市街地の人口の社会増減は、年度によってバラつきがあるが、平成 25 年度は増加している。

人口の自然増減（出生者数から死亡者数を引いた数）

- ・中心市街地の人口の自然増減は、死亡者数が出生者数を毎年度上回り、自然減の状況が続いている。

人口密度

- ・中心市街地の人口密度は、本市全体の約 3.5 倍である。

通勤・通学者の流入と流出

- ・通勤・通学者は、主に大阪市などへの流出が多いが、近隣市町からの流入もみられる。

昼間人口と夜間人口

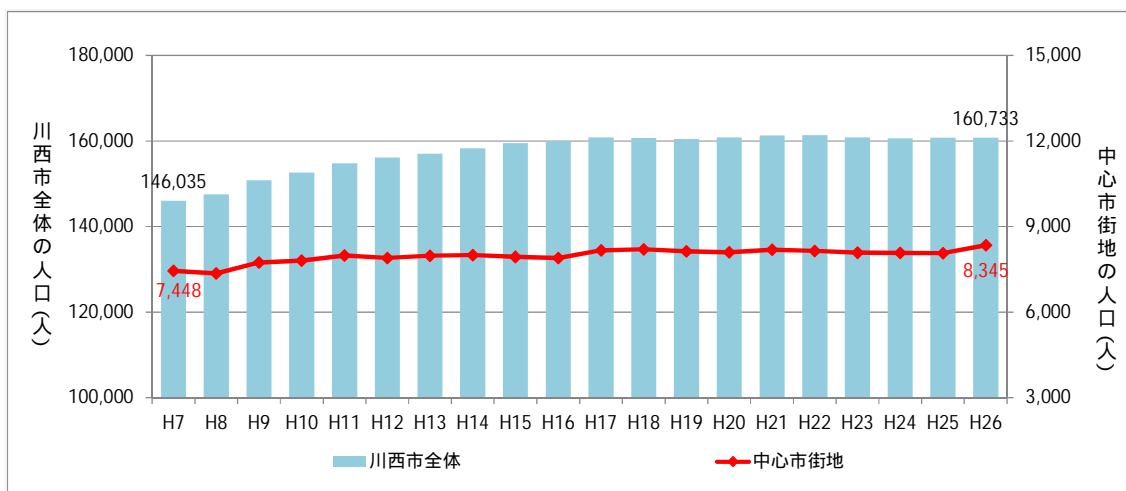
- ・住宅都市として発展した経緯から、昼夜間人口比率が周辺都市と比べ低い状況にある。

人口

本市は、大阪市や神戸市方面への交通の利便性が高いことから、人口は平成 17 年度頃まで緩やかな増加傾向にあったが、近年は、16 万人程度で横ばいの状態が続いている。

中心市街地では、平成 7 年度から人口は横ばいの傾向にあるが、平成 26 年度では、民間事業者によるマンション供給等により、増加した。

川西市及び中心市街地の人口の推移



出典：住民基本台帳（各年度4月1日現在）

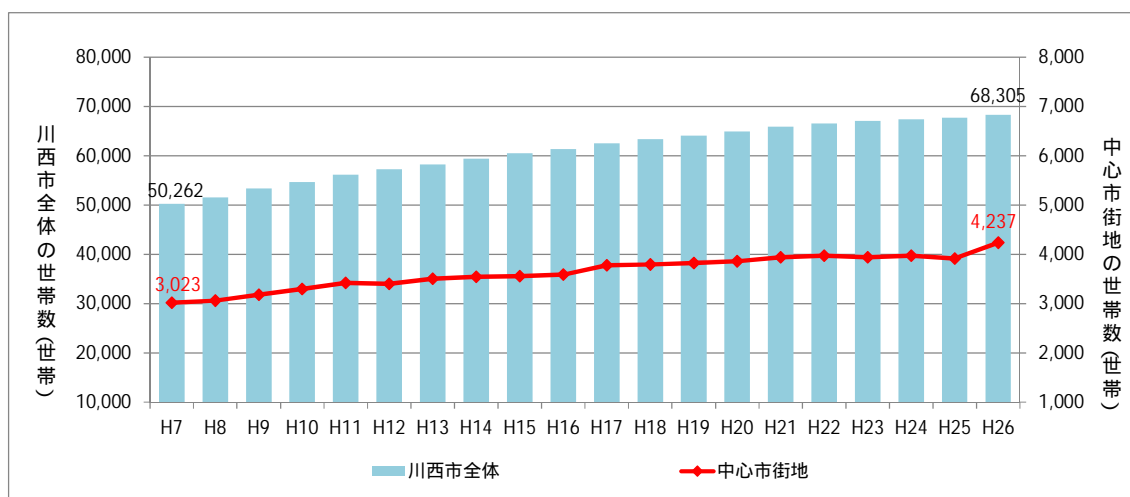
中心市街地のエリアに該当する町丁目の値の合計値（町丁目がまたがる一部地域においては面積按分している）

世帯

本市では、一人世帯が増加していることから、世帯数は増加傾向にある。

中心市街地においても、世帯数は増加傾向にあり、世帯人員は、本市全体および中心市街地ともに減少傾向にある。

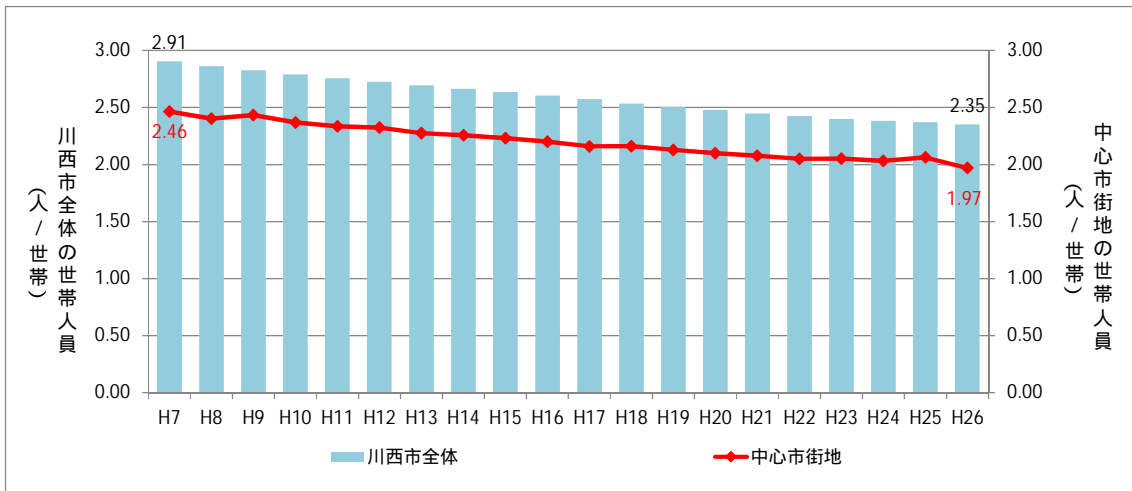
川西市及び中心市街地の世帯数の推移



出典：住民基本台帳（各年度4月1日現在）

中心市街地のエリアに該当する町丁目の値の合計値（町丁目がまたがる一部地域においては面積按分している）

川西市及び中心市街地の世帯人員の推移



出典：住民基本台帳（各年度 4 月 1 日現在）

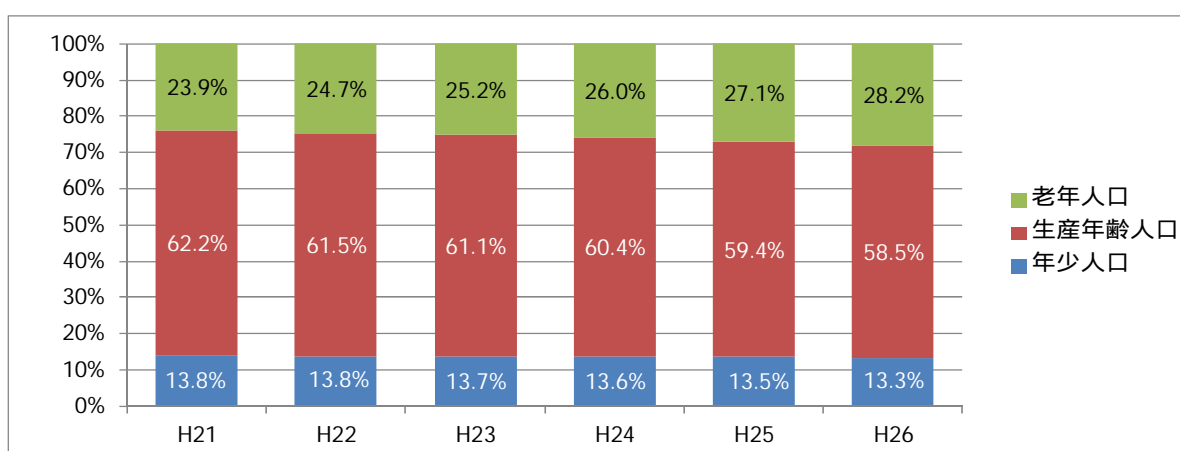
年齢別人口

本市における老年人口（65歳以上）は増加、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）は減少、年少人口（15歳未満）はほぼ横ばいで推移している。

中心市街地においても、老年人口（65歳以上）生産年齢人口（15歳以上65歳未満）年少人口（15歳未満）がそれぞれ、本市全体と同様の傾向にある。

本市及び中心市街地の年齢3区分人口割合の推移

本市全体



中心市街地



出典：住民基本台帳（各年度4月1日現在）

人口の社会増減

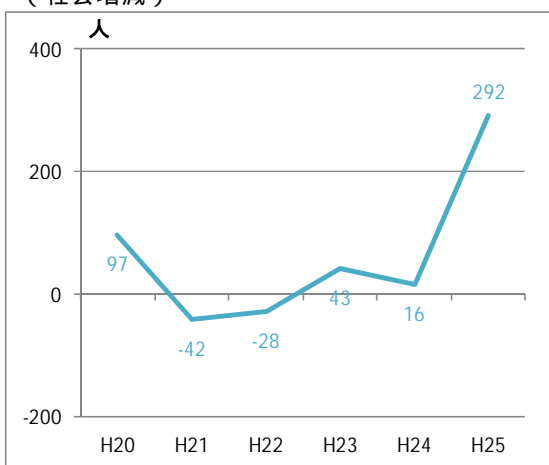
中心市街地の人口の社会増減は、年度によってバラつきがあるものの、平成25年度に民間マンション供給等により、大幅な社会増となっている。

転出者数と転入者数（ともに市内転居者を含む）は、平成25年度の転入者の数値を除けば、どちらもほぼ横ばいで推移しており、新たな住宅供給に伴う転入者（市内転居者を含む）がなければ、転入・転出は均衡状態にあると考えられる。

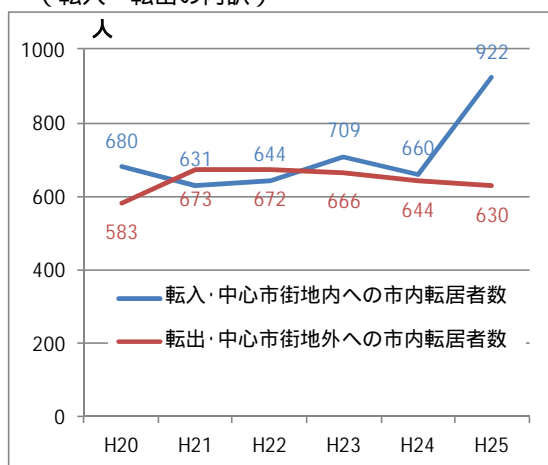
社会増減 = (転入者数(中心市街地内に居住)および中心市街地内への市内転居者) - (転出者(中心市街地内に居住)および中心市街地外への市内転居者)

人口の社会増減の状況

(社会増減)



(転入・転出の内訳)



出典：住民基本台帳（各年度3月末日現在）

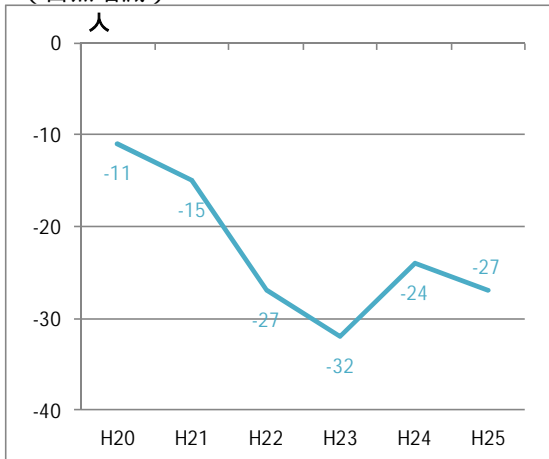
人口の自然増減

中心市街地の人口の自然増減は、平成20年度から、死亡者数が出生者数を毎年度上回り、自然減の状況が続いており、年々その傾向は強くなってきている。

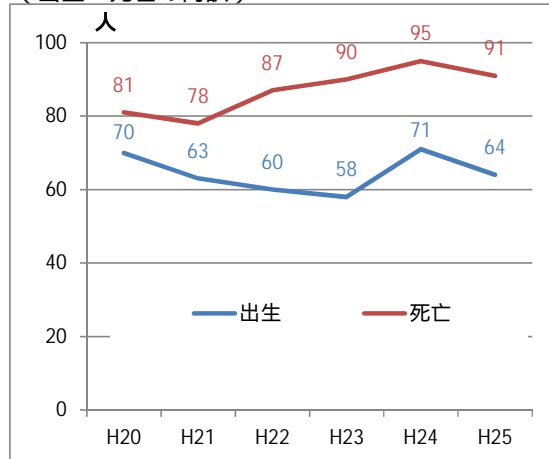
自然増減 = (出生者数) - (死亡者数)

人口の自然増減の状況

(自然増減)



(出生・死亡の内訳)

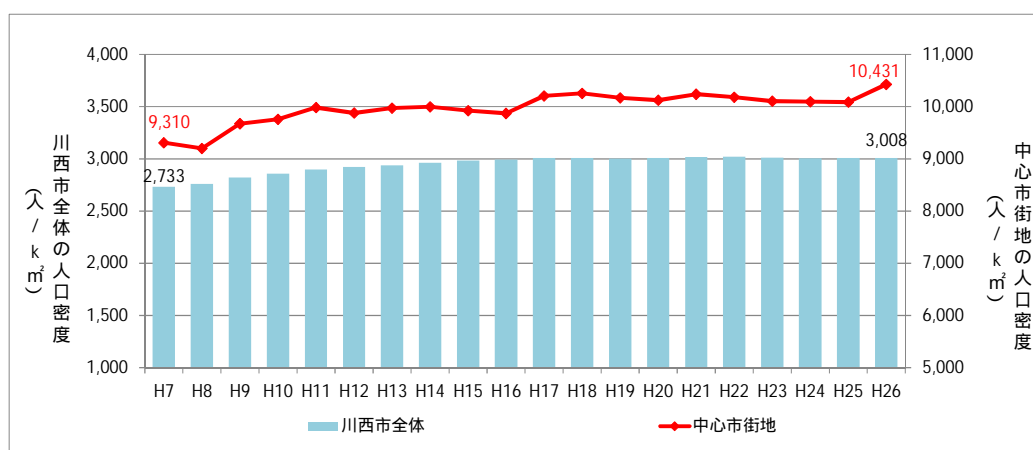


出典：住民基本台帳（各年度3月末日現在）

人口密度

平成 16 年度から人口は横ばいの状況が続いていたことから、人口密度はほぼ横ばいであったが、平成 25 年度に中心市街地内でマンションが相次いで建設されたことで住宅供給が進み、平成 26 年度は中心市街地の人口密度が上昇した。

本市及び中心市街地の人口密度の推移



出典：住民基本台帳（各年度 4 月 1 日現在）

通勤・通学者の流入と流出

本市は住宅都市として発展しており、市内に事業所や大学などが少なく、私立高校がないことから、通勤・通学者は公共交通機関や自家用車などで大阪市を中心に近隣市町へ流出している。

一方、流出者数 40,559 人に対して、宝塚市や猪名川町、伊丹市を中心に 12,902 人が本市に流入している。

流入者数と流出者数

都市名	流入者数(人)		流出者数(人)		流入者数 - 流出者数(人)		
	15歳以上の就業者	15歳以上の通学者	15歳以上の就業者	15歳以上の通学者	15歳以上の就業者	15歳以上の通学者	
兵庫県	神戸市	484	7	1,521	449	1,037	442
	尼崎市	771	6	2,880	135	2,109	129
	西宮市	793	8	1,166	449	373	441
	伊丹市	1,830	102	3,535	383	1,705	281
	宝塚市	2,704	33	2,136	240	568	207
	三田市	395	2	472	159	77	157
	猪名川町	1,951	359	1,654	127	297	232
大阪府	大阪市	670	11	14,793	689	14,123	678
	豊中市	836	11	3,329	285	2,493	274
	池田市	1,276	11	3,464	160	2,188	149
	吹田市	201	2	1,140	342	939	340
	箕面市	428	11	967	84	539	73
小計	12,339	563	37,057	3,502	24,718	2,939	
合計		12,902		40,559		27,657	

出典：国勢調査（平成 22 年度）

昼間人口と夜間人口

本市は、大阪などのベッドタウンとしての特色があり、市内に事業所や大学などが少なく、私立高校がないことから、大阪市や阪神間、神戸方面への通勤・通学者が多い。このため、夜間人口に比べて昼間人口が少なく、昼夜間人口比率は80%弱となっており、周辺の都市と比べても低い比率となっている。

昼間人口と夜間人口

都市名		夜間人口 (a)	昼間人口 (b)	比率 (b/a)
兵庫県	神戸市	1,544,200	1,583,765	102.6%
	尼崎市	453,748	439,358	96.8%
	西宮市	482,640	430,285	89.2%
	伊丹市	196,127	178,488	91.0%
	宝塚市	225,700	181,755	80.5%
	川西市	156,423	125,023	79.9%
	三田市	114,216	103,098	90.3%
	猪名川町	31,739	23,948	75.5%
大阪府	大阪市	2,665,314	3,538,576	132.8%
	豊中市	389,341	347,467	89.2%
	池田市	104,229	97,397	93.4%
	吹田市	355,798	350,816	98.6%
	箕面市	129,895	111,608	85.9%

出典：国勢調査（平成22年度）

(2) 産業

【現状分析】

事業所数と従業者数

- ・ 中心市街地の事業所数は、平成 13 年度以降一貫して減少している。
- ・ 中心市街地の従業者数は減少しているものの、本市全体に占める割合は増加傾向にある。

小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額、売場面積

- ・ 中心市街地における小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額、売場面積は、年々減少傾向にある。

事業所数と従業者数

本市全体における事業所数は、平成 21 年度に増加したものの、平成 24 年度には減少している。中心市街地における事業所数は、平成 13 年度以降、一貫して減少している。

全産業の事業所数と従業者数（平成 24 年度）

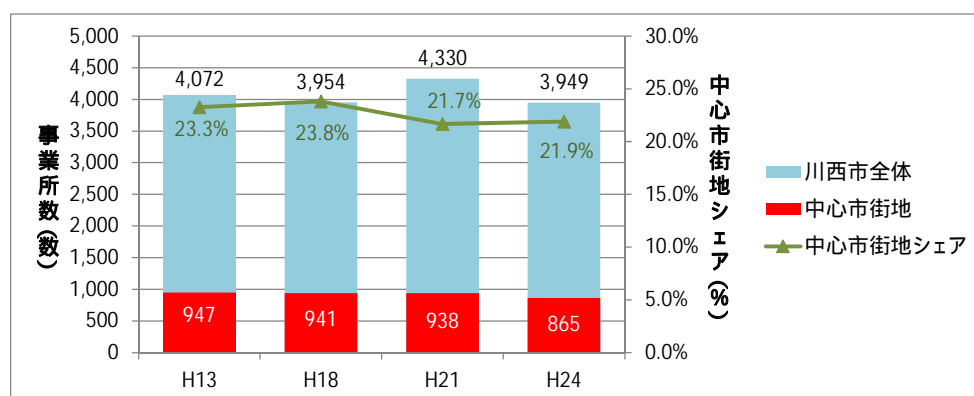
	事業所数	従業者数
中心市街地	865	9,358
本市全体	3,949	35,049
割合	21.9%	26.7%

出典：経済センサス活動調査（平成 24 年度）

事業所数において、本市全体の 3,949 事業所に対して、中心市街地には 21.9% の 865 事業所が立地しており、その内訳は、「卸・小売業」が 27.0%、「金融・保険業」が 47.9%、「不動産業」が 17.4%、「宿泊業・飲食サービス業」が 26.0%、「サービス業」が 17.4% などとなっている。

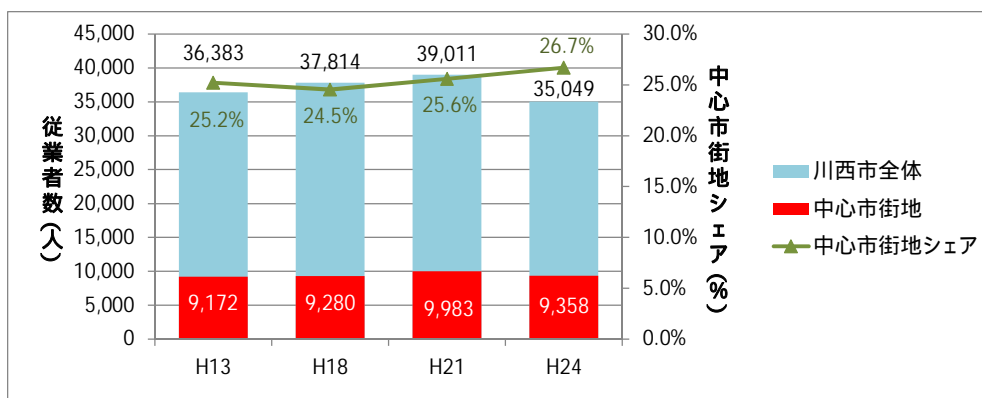
一方、本市全体における従業者数は、平成 21 年度に増加したものの、平成 24 年度には減少しており、中心市街地においては平成 13 年度から減少し続けている。また、本市全体に占める中心市街地の従業者数の割合は 26.7% となっており、増加傾向にある。

全産業の事業所数の推移



出典：事業所・企業統計調査（平成 13 年度・18 年度）、経済センサス基礎調査（平成 21 年度）、経済センサス活動調査（平成 24 年度）

全産業の従業者数の推移



出典：事業所・企業統計調査（平成13年度・18年度）、経済センサス基礎調査（平成21年度）、経済センサス活動調査（平成24年度）

産業別事業所数（平成24年度）

	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道	運輸・通信業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	宿泊業、飲食サービス業	サービス業
中心市街地	0	27	19	0	4	276	29	61	133	39
本市全体	4	312	233	2	26	1,023	61	351	514	224
割合	0.0%	8.8%	8.2%	0.0%	15.2%	27.0%	47.9%	17.4%	26.0%	17.4%

出典：経済センサス活動調査（平成24年度）

産業別従業者数（平成24年度）

	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道	運輸・通信業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	宿泊業、飲食サービス業	サービス業
中心市街地	0	280	174	0	318	2,259	544	321	1,245	849
本市全体	44	1,801	2,724	15	1,640	8,200	911	1,122	4,316	2,261
割合	0.0%	15.5%	6.4%	0.0%	19.4%	27.5%	59.8%	28.6%	28.8%	37.5%

出典：経済センサス活動調査（平成24年度）

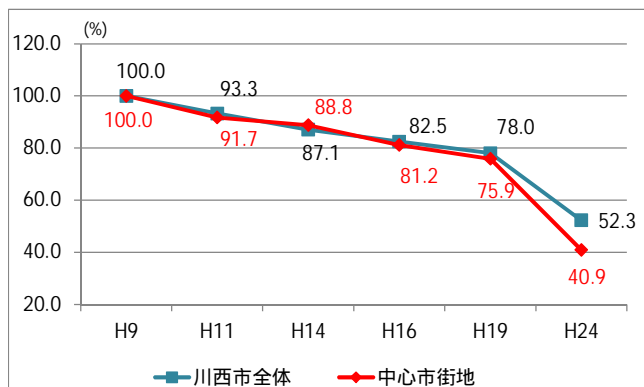
小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額、売場面積

中心市街地には、アステ川西、阪急百貨店などの大型商業施設が立地しているほか、コンビニエンスストアや沿道型の商業施設が立地している。しかし、低迷する景気の影響などにより、商店数、従業者数、年間商品販売額が減少している。また、猪名川町にはイオンモール猪名川、伊丹市にはイオンモール伊丹など周辺都市に大規模商業施設が次々と開業しており、中心市街地内の商業活動は非常に厳しい状況となっている。

本市全体における小売業の商店数は減少しており、平成 24 年度には 645 店（平成 9 年度の 52.3%）となっている。中心市街地においても同様に減少が続いており、187 店（平成 9 年度の 40.9%）まで減少している。

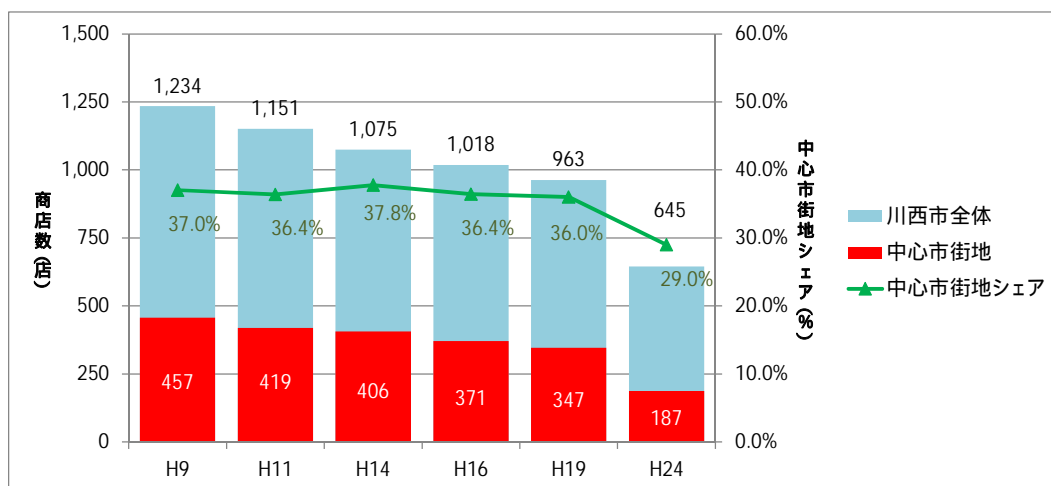
また、本市全体に占める中心市街地の小売業の商店数の割合は、平成 24 年度に大きく減少している。

平成 9 年度を基準とした商店数（小売業）の推移



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで） 経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

商店数（小売業）の推移

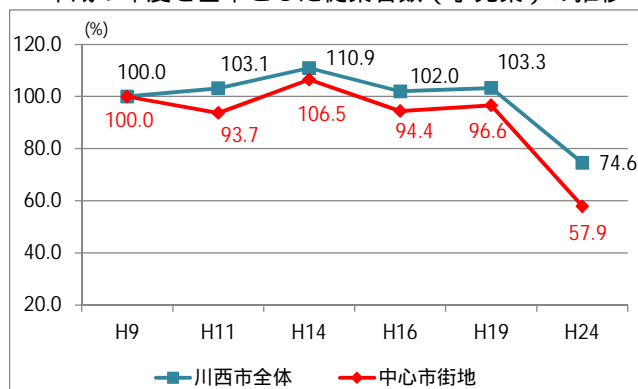


出典：商業統計調査（平成 19 年度まで） 経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

本市全体の従業者数は、ここ数年、増減を繰り返しているが、平成 24 年度には、5,757 人（平成 9 年度の 74.6%）に減少している。

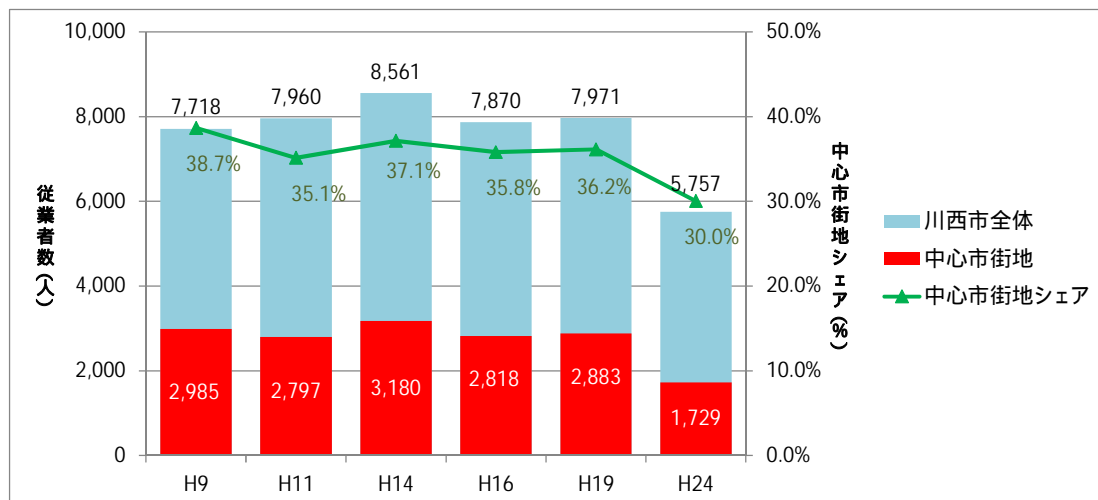
中心市街地の従業者数についても同様の傾向にあり、平成 24 年度には、1,729 人（平成 9 年度の 57.9%）に減少している。

平成 9 年度を基準とした従業者数（小売業）の推移



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで） 経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

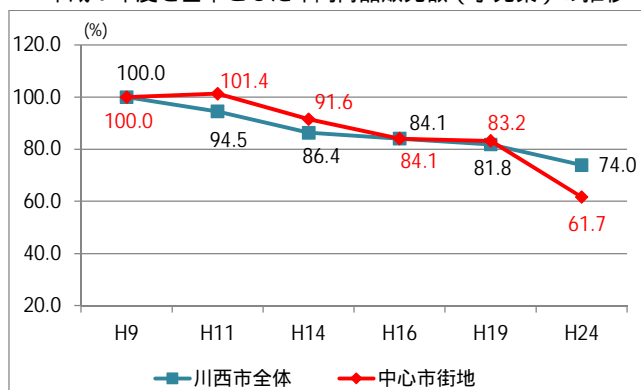
従業者数（小売業）の推移



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで）、経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

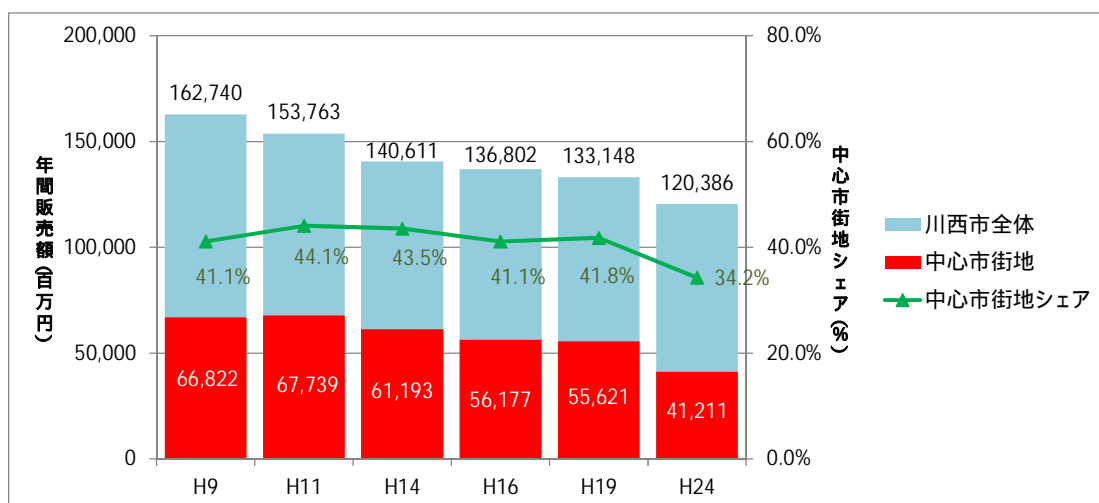
本市全体の年間商品販売額は、減少しており、平成 24 年度には 1,203 億円（平成 9 年度の 74.0%）に減少している。中心市街地においても同様の傾向が続いており、平成 24 年度には 412 億円（平成 9 年度の 61.7%）に減少している。

平成 9 年度を基準とした年間商品販売額（小売業）の推移



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで）、経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

年間商品販売額（小売業）の推移

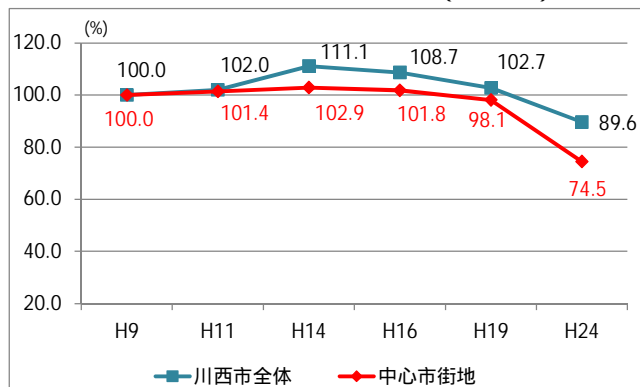


出典：商業統計調査（平成 19 年度まで）、経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

本市全体の売場面積（小売業）は、平成 14 年度をピークに減少が続いており、平成 24 年度には、119,319 m²（平成 9 年度の 89.6%）に減少している。

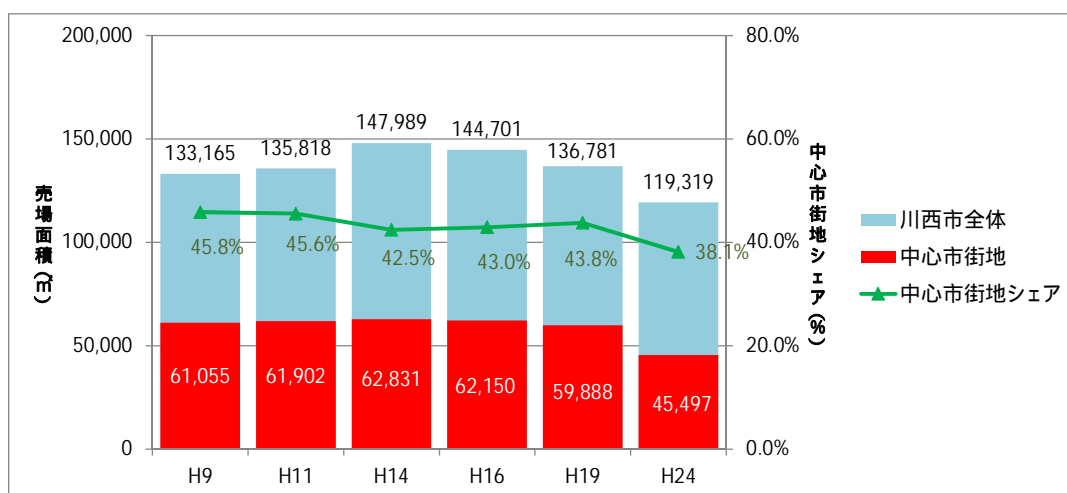
中心市街地では、平成 19 年度まで横ばいの傾向が続いていたが、平成 24 年度は、45,497 m²（平成 9 年度の 74.5%）に減少している。

平成 9 年度を基準とした売場面積（小売業）の推移



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで） 経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

売場面積（小売業）の推移



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで） 経済センサス活動調査（平成 24 年度） 注

注 商店数（小売業）・小売業年間商品販売額・従業員数・売場面積については、平成 19 年度までは商業統計調査（経済産業省）の数値、平成 24 年度は経済センサス活動調査（総務省）の数値を利用している。この 2 つのデータ比較にあたっては、集計対象が異なることに留意する必要がある旨、総務省より所見を得ている。（総務省「平成 24 年度経済センサス活動調査 利用上の注意」による。）

(3) 歩行者通行量

【現状分析】

歩行者通行量の現状

- ・大型商業施設の撤退などで平成 21 年度に大幅に減少したが、その後、アステ川西地下 1 階リニューアルやソフト事業の実施などによって、徐々にではあるが、回復の傾向がみられる。

歩行者通行量

平成 20 年度にジャスコ川西店が撤退した影響で、平成 21 年度に歩行者通行量は大幅に減少したが、平成 23 年度に、アステ川西地下 1 階をリニューアルしたほか、かわにしにぎわい創出イベントの実施などにより、徐々にではあるが回復傾向にあり、平成 26 年度は、平日については、平成 21 年度比 6,611 人増加の 59,585 人、休日については、平成 21 年度比 7,804 人増加の 64,172 人となった。

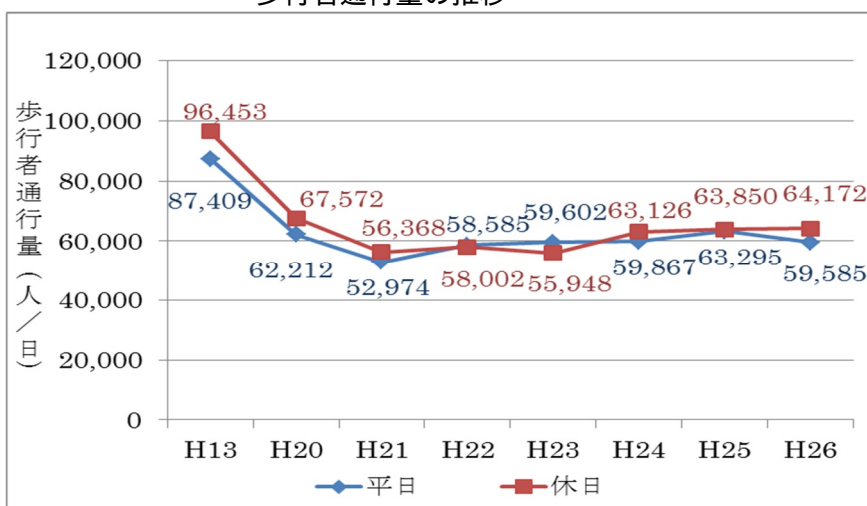
各調査地点別にみると、イオンリカー&ビューティー川西店の出店により、旧ジャスコ連絡通路において、平成 24 年度から 25 年度にかけて、休日・平日ともに、大幅な増加が見られた。また、川西能勢口駅南の歩行者デッキにおいて、平成 21 年度から 24 年度にかけて休日の歩行者通行量が増加したが、平成 25 年度以降は減少した。

地点別歩行者通行量の推移（休日）

	H21 (人)	H22 (人)	H23 (人)	H24 (人)	H25 (人)	H26 (人)
アステ川西南側の歩行者デッキ	11,572	11,342	10,945	11,355	11,160	11,517
川西能勢口駅南の歩行者デッキ	21,530	21,480	19,747	23,339	21,457	22,235
川西能勢口駅北の歩行者デッキ	10,652	10,999	11,550	10,794	10,948	10,663
高架側道旧ジャスコ北東側の歩道	1,288	1,015	1,034	3,613	3,265	2,689
川西能勢口駅北東中央交番前の歩道	3,344	4,389	4,511	4,671	4,575	5,080
県道パルティ川西前の歩道	2,984	3,708	3,762	4,045	4,459	4,979
モザイクボックス西の歩道	4,341	4,737	3,881	4,909	4,473	4,033
旧ジャスコ連絡通路	657	332	518	400	3,513	2,976
合計	56,368	58,002	55,948	63,126	63,850	64,172

出典：歩行者通行量調査・川西市中心市街地活性化協議会

歩行者通行量の推移



出典：川西能勢口駅周辺歩行者通行量調査・川西市商工会（H20 年度まで）
歩行者通行量調査・川西市中心市街地活性化協議会（H21 年度以降）

(参考) 地点別歩行者通行量の推移(平日)

	H21 (人)	H22 (人)	H23 (人)	H24 (人)	H25 (人)	H26 (人)
アステ川西南側の歩行者デッキ	12,060	12,462	12,148	12,007	12,332	12,604
川西能勢口駅南の歩行者デッキ	18,365	20,513	20,825	20,192	21,512	19,830
川西能勢口駅北の歩行者デッキ	8,496	9,972	10,161	10,098	10,683	8,727
高架側道旧ジャスコ北東側の歩道	2,215	1,323	1,290	2,414	2,597	2,497
川西能勢口駅北東中央交番前の歩道	5,311	5,653	5,645	5,225	4,994	5,155
県道パルティ川西前の歩道	3,039	4,143	4,334	4,547	4,504	4,169
モザイクボックス西の歩道	2,975	4,018	4,624	4,885	3,681	4,043
旧ジャスコ連絡通路	513	501	575	499	2,992	2,560
合計	52,974	58,585	59,602	59,602	63,295	59,585

出典：歩行者通行量調査・川西市中心市街地活性化協議会

調査地点



アンケート調査によれば、来街者は、おおむね6割強が本市内から来街している。

来街者アンケート調査による居住地

	川西市内	川西市外	不明
平日	62.1%	32.2%	5.7%
休日	61.1%	36.2%	2.6%
全体	61.6%	34.2%	4.2%

出典：まちなか滞留調査(平成26年度)

(4) 公共交通

【現状分析】

公共交通の利用状況

- ・市民の約5割が公共交通を利用する機会が多いと回答している。
- ・中心市街地に立地する鉄道駅の乗降客数は、緩やかながら減少傾向にある。一方、バスの乗降客数は、やや増加傾向にある。

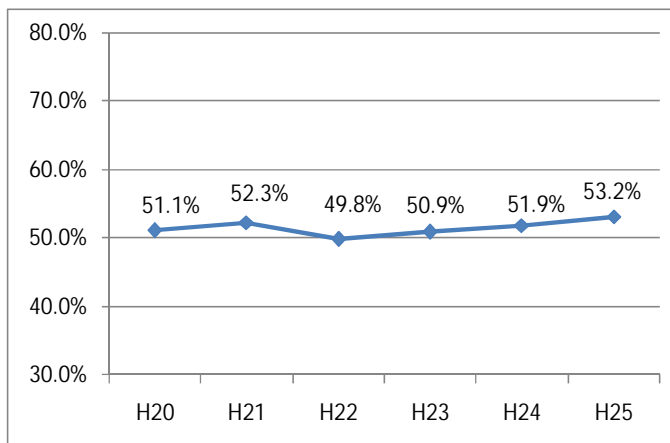
公共交通の利用状況

市民の公共交通の利用状況を見ると、ここ数年、「公共交通を利用する機会が多い」と回答している割合が5割前後で推移している。

公共交通の利用状況のうち、鉄道について、JR川西池田駅、阪急・能勢電鉄川西能勢口駅の乗降客数は、緩やかながら減少傾向にある。

一方、バスの乗降客数については、やや増加傾向にある。

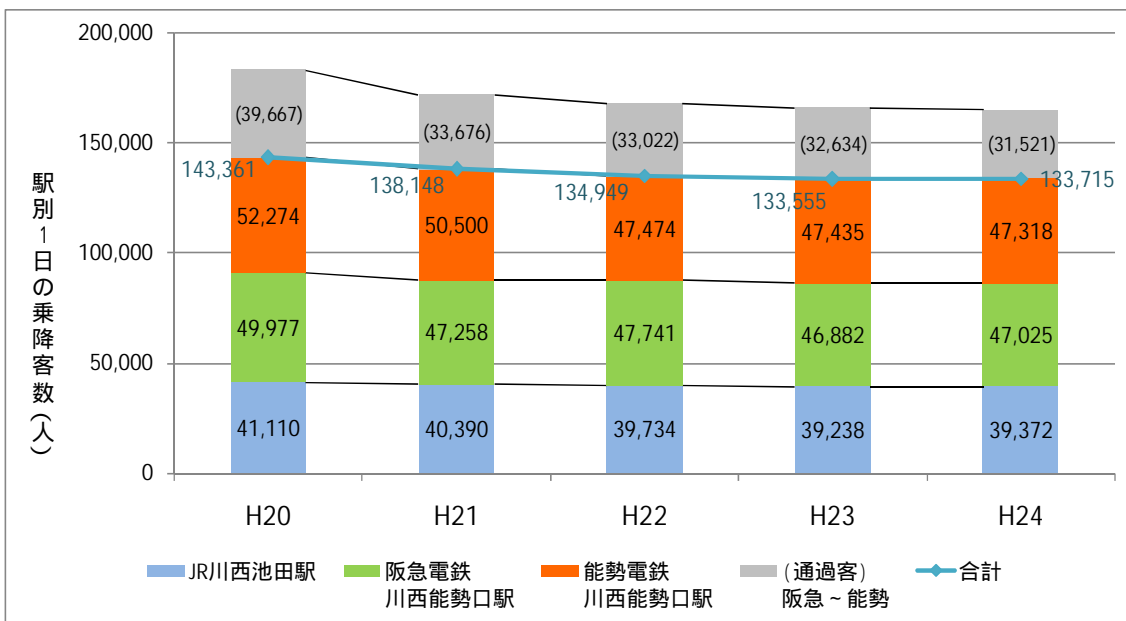
公共交通を利用する機会が多いと回答した割合



出典：川西市市民実感調査

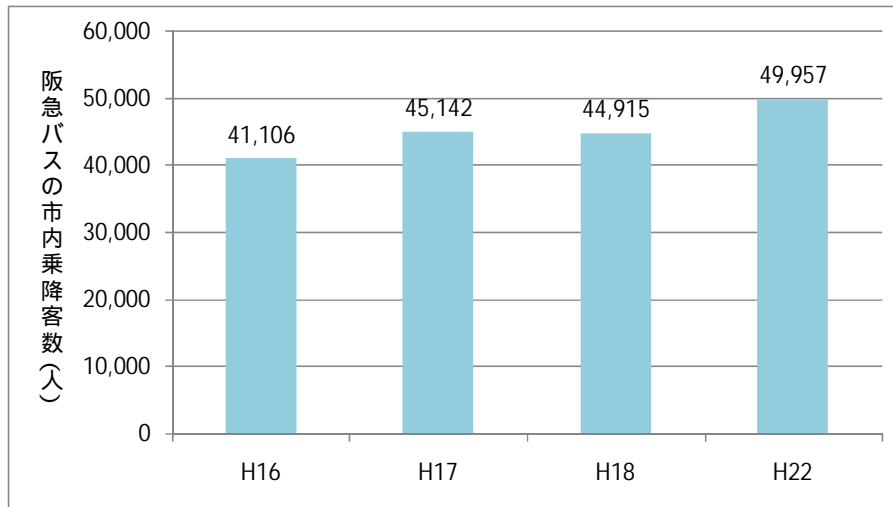
自家用車よりもバスや電車などの公共交通機関を利用することの方が多くと回答した割合

1日平均駅乗降客数の推移



出典：川西市統計要覧

1日平均バス乗降客数の推移



出典：川西市統計要覧

[4] 市民ニーズ等の把握・分析

(1) 来街者アンケート調査に基づく把握・分析

【現状分析】

- ・ 中心市街地への来街目的で多いのは「食料品の買物」である。
- ・ 中心市街地における平均滞留時間は、2 時間程度である。
- ・ 中心市街地は、「利便性の高いまち」「整備されたまち」のイメージを持たれている。
- ・ まちに必要な機能として、エンターテインメント機能や憩いの場を求める声が多い。

川西能勢口駅周辺への来街者に対して、川西能勢口駅周辺のイメージ、まちへのニーズや来街頻度などを聞き取るにより、中心市街地の実情を把握し、新川西市中心市街地活性化基本計画の基礎資料とすることを目的として来街者アンケート（まちなか実感調査）を実施した。

【調査概要】

調査日時

- ・ 平成 26 年 6 月 22 日（日）及び 6 月 23 日（月）10：00～18：00

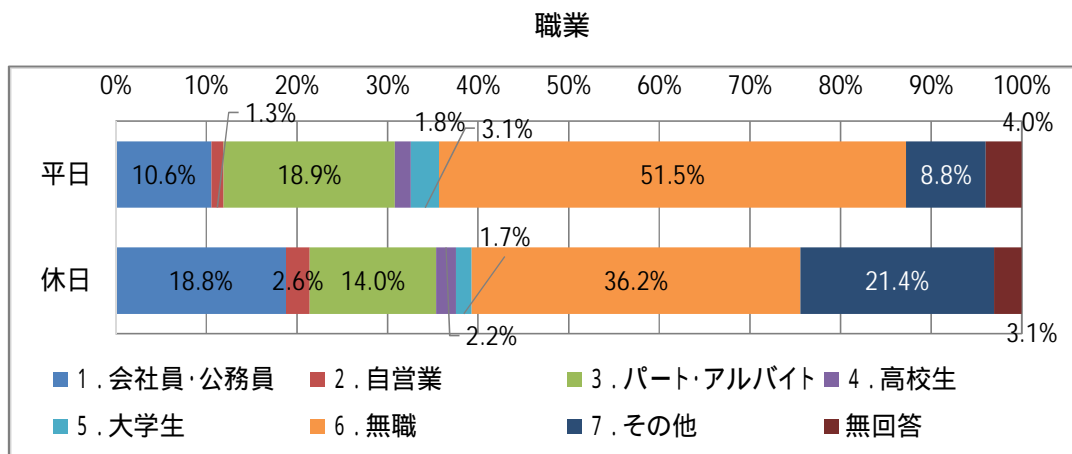
調査方法

- ・ 調査員の街頭インタビューによる聞き取り調査

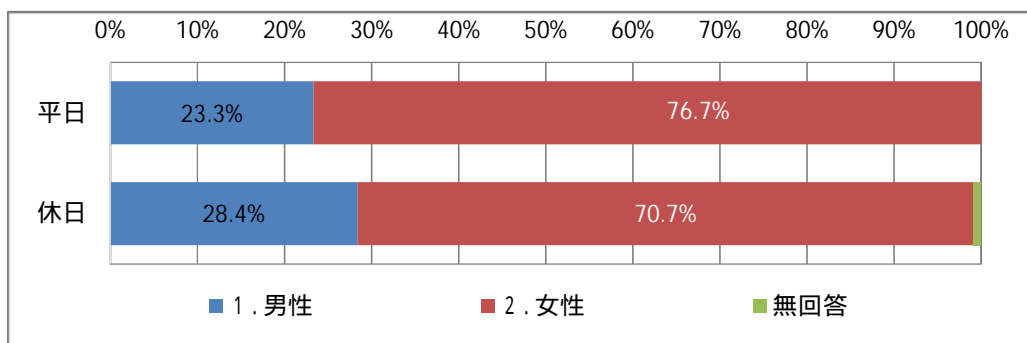
回収サンプル数

- ・ 平成 26 年 6 月 22 日（日）：229 サンプル
- ・ 平成 26 年 6 月 23 日（月）：227 サンプル

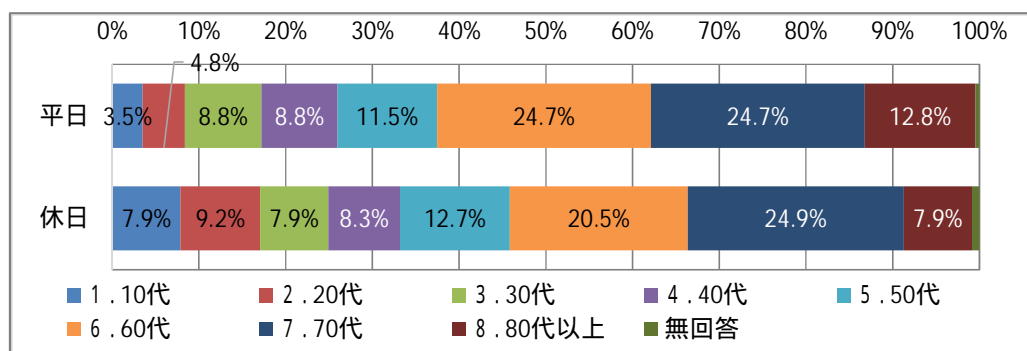
回答者の属性



性別



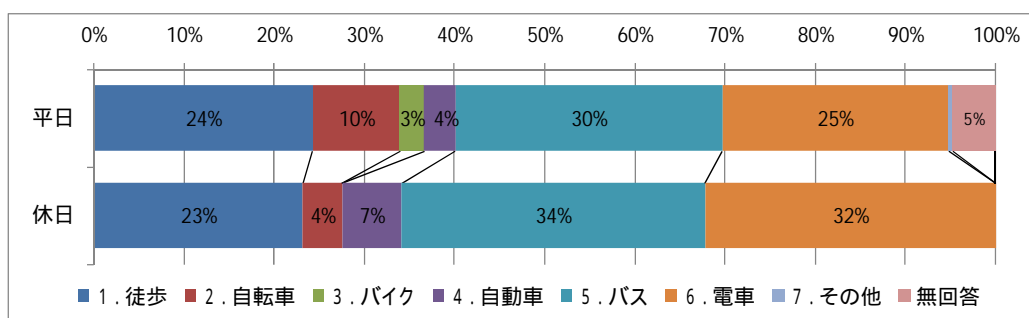
年代



交通手段

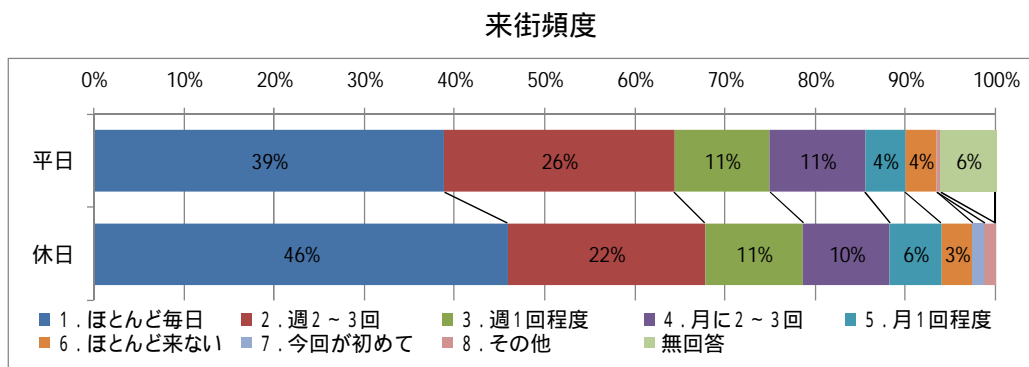
中心市街地への交通手段は、電車やバスの利用が約 6 割、徒歩と自転車の利用が約 3 割であり、特に休日は公共交通利用の割合が高い。

交通手段



来街頻度

中心市街地への来街頻度は、平日・休日ともに、ほとんど毎日が最も多く、週1回以上の来街者は、70%以上となっている。



来街目的

中心市街地への来街目的として多かったのは、食料品の買物、次いで身回品、日用雑貨の買い物が多く、中心市街地では、最寄品の購買需要が高くなっている。

最寄品...消費者が近くの小売店で頻繁に購入するような商品。例：食品、生活雑貨など

来街目的

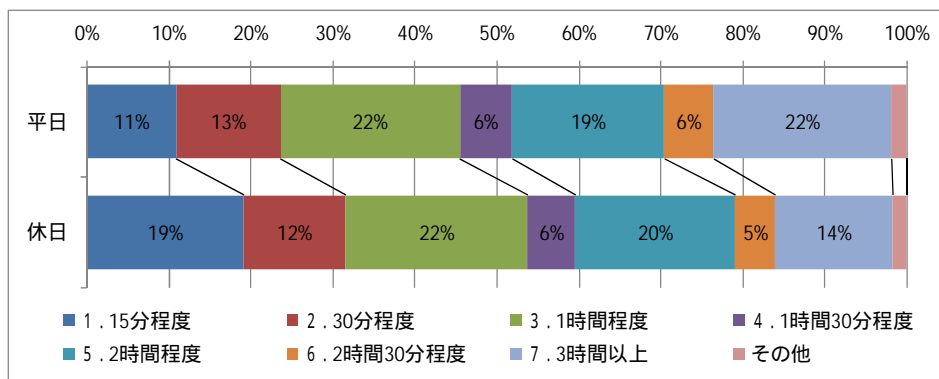
	平日	休日
1. 食料品の買物	38%	43%
2. 身回品、日用雑貨の買物	15%	14%
3. 家電製品の買物	0%	0%
4. 洋服、装身具の買物	3%	7%
5. 贈答品の買物	2%	2%
6. 飲食・喫茶	8%	8%
7. 図書館の利用	7%	6%
8. ホール公演等の鑑賞	0%	0%
9. 文化教室等への参加	4%	1%
10. ボウリング、パチンコなどのレジャー	0%	0%
11. スポーツジム・プールなどでの運動	1%	0%
12. ウィンドウショッピング	1%	2%
13. 通勤・通学の途中	11%	5%
14. 仕事のついで	0%	2%
15. 何となく	2%	4%
16. その他	33%	25%
無回答	3%	0%

平均滞留時間

来街者の滞留時間を集計した結果、約2時間程度となり、平成21年度と比べ、平均滞留時間が減少している。

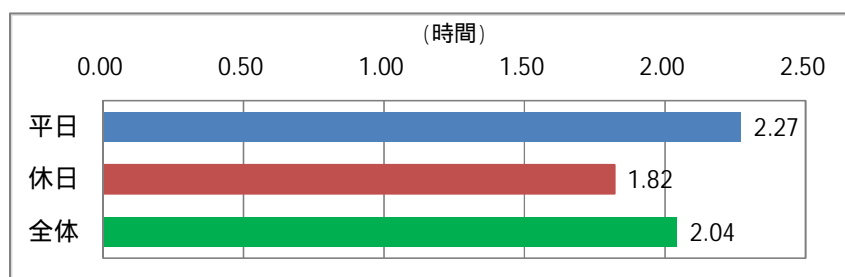
なお、来街手段別の平均滞留時間をみると、自動車での来街者が最も長く、次いで自転車や電車での来街者が長く、バスでの来街者は、他の来街手段に比べ、短くなっている。

平均滞留時間

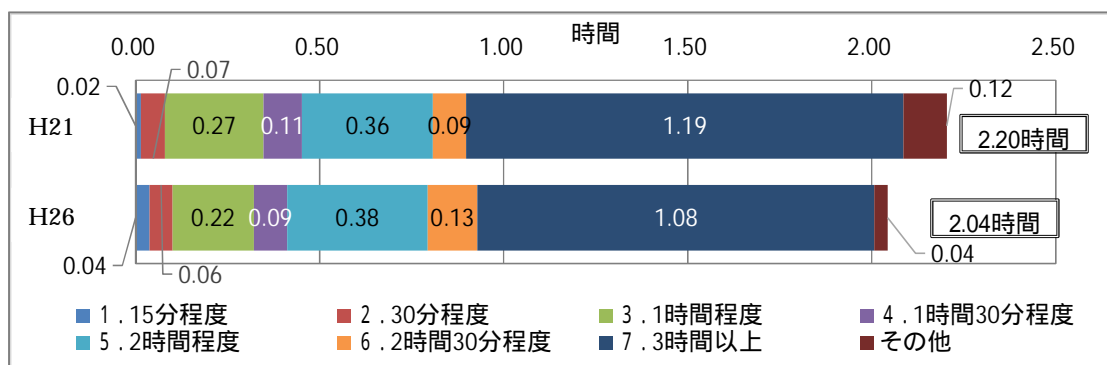


	15分程度	30分程度	1時間程度	1時間30分程度	2時間程度	2時間30分程度	3時間以上	その他
平日	10.9%	12.7%	21.8%	6.4%	18.6%	5.9%	21.8%	1.8%
休日	19.1%	12.4%	22.2%	5.8%	19.6%	4.9%	14.2%	1.8%
全体	15.1%	12.6%	22.0%	6.1%	19.1%	5.4%	18.0%	1.8%

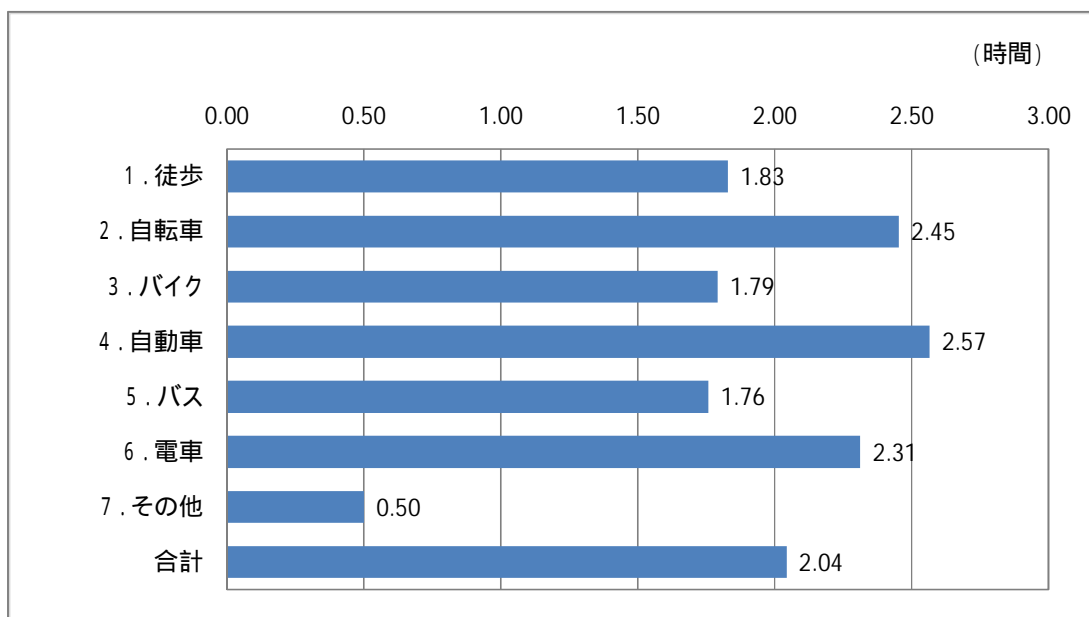
平均滞留時間の比較 (平日と休日の比較)



平均滞留時間の比較 (平成21年度と平成26年度の比較)



来街手段別平均滞留時間の比較（平日・休日合わせた数値）

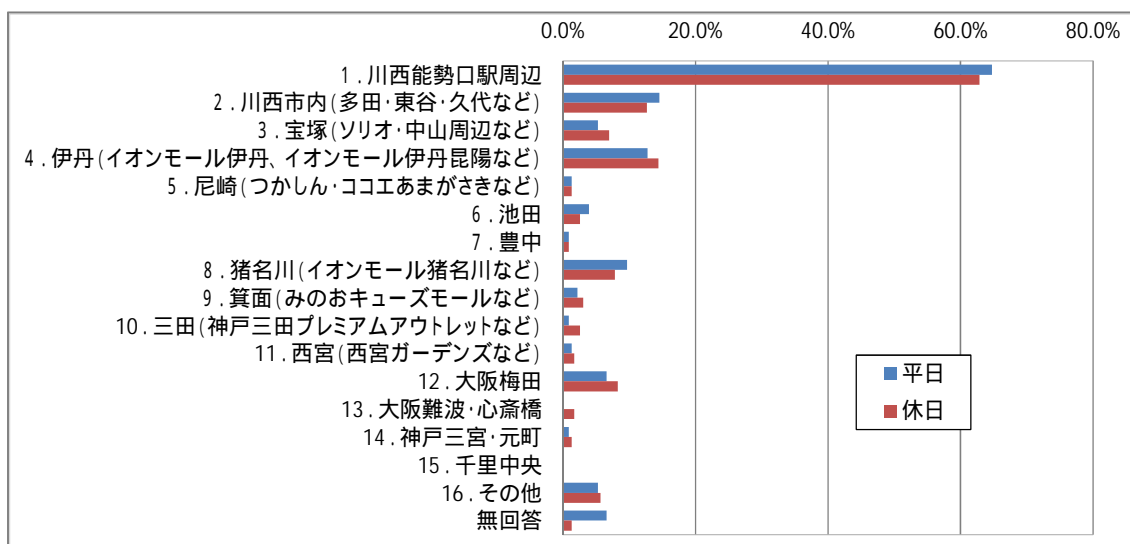


中心市街地以外の来街目的地

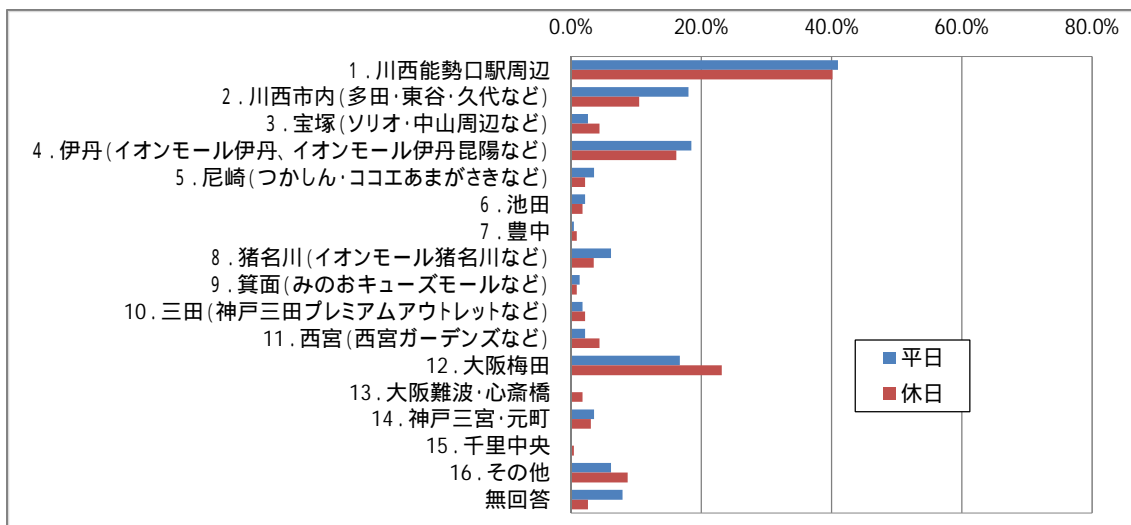
中心市街地以外で買い物に訪れる場所として、最寄品の場合、市内（多田・東谷・久代）や伊丹（イオンモール伊丹、イオンモール伊丹昆陽）などが多く、買回品の場合、伊丹や大阪梅田が多い。

買回品...消費者が、いくつかの製品を十分に比較検討した上で購入する商品。例：家具、家電製品など

最寄品の購入場所



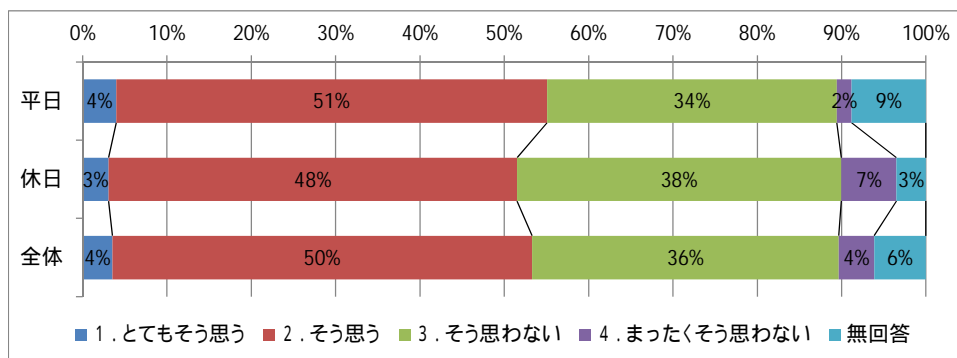
買回品の購入場所



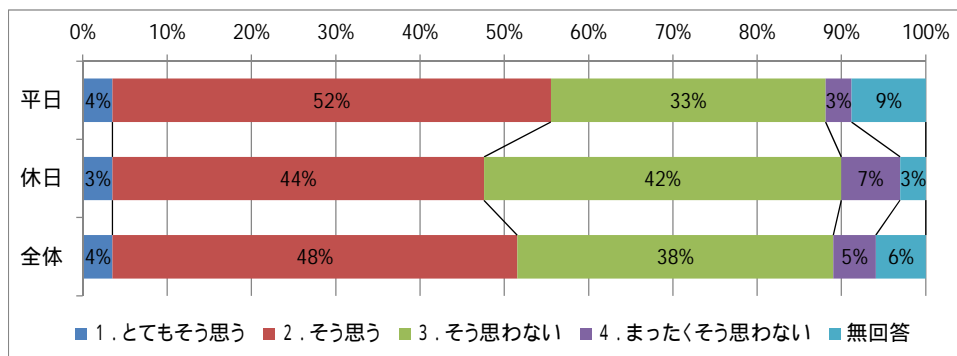
数年前と比較したまちの状況

「魅力的で活気のあるまちになった」と思う人が半数以上となったものの、そう思わない人も4割前後おり、「楽しみながら回遊したくなるまちになった」と思う人が半数前後となったものの、そう思わない人も4割前後いる結果となった。

魅力的で活気のあるまちになった

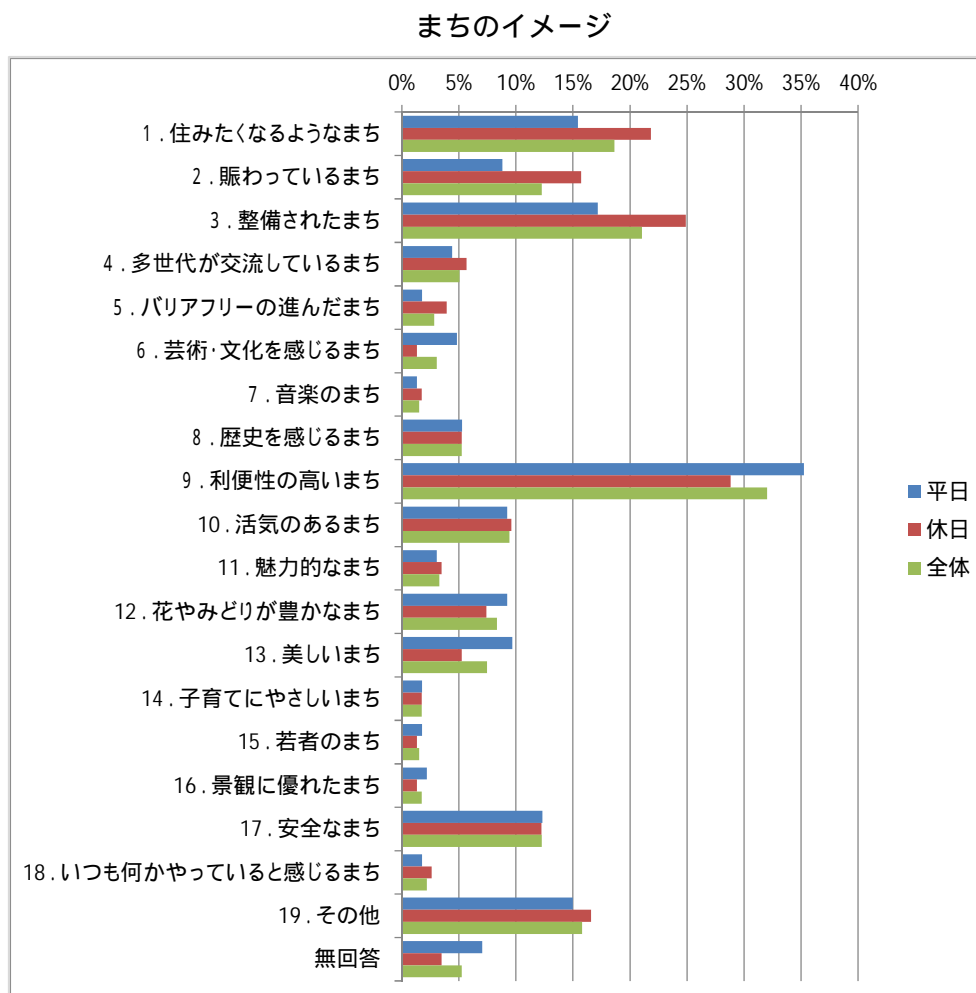


楽しみながら回遊したくなるまちになった



まちのイメージ

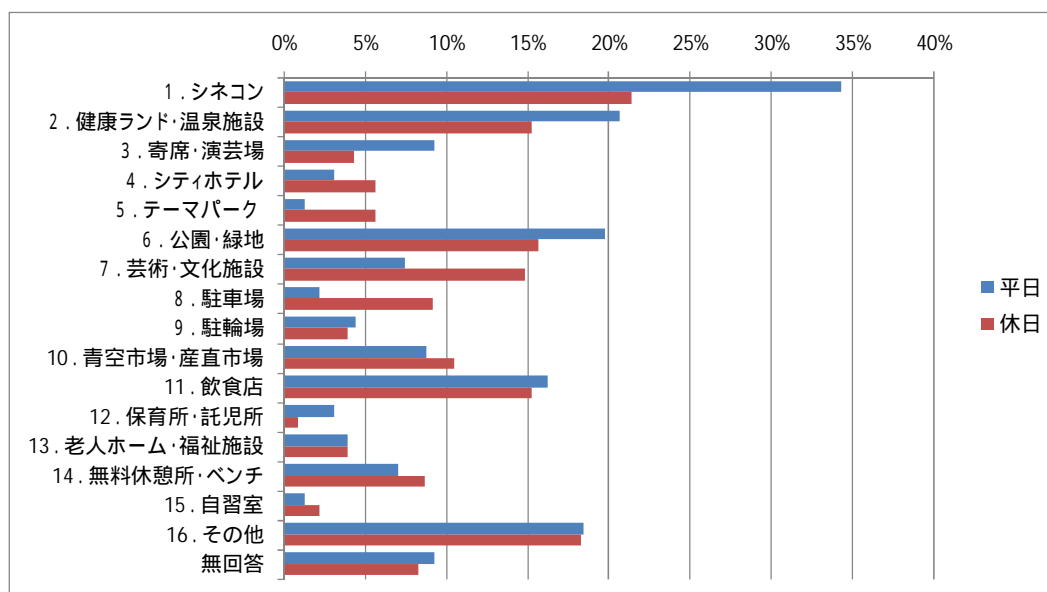
川西能勢口駅周辺のイメージとして最も多かったのが、「利便性の高いまち」、次いで「整備されたまち」、「住みたくなるようなまち」となった。



必要な機能

川西能勢口駅周辺への来街頻度を高めたり、長く滞留するために必要な機能や空間として最も多かったのがシネコン、次いで、健康ランド・温泉施設、公園・緑地、飲食店などとなり、エンターテイメント系の施設や憩いの場といったニーズが多かった。

必要な機能



[5] 前中心市街地活性化基本計画等に基づく取組みの把握・分析

(1) 前中心市街地活性化基本計画の概要

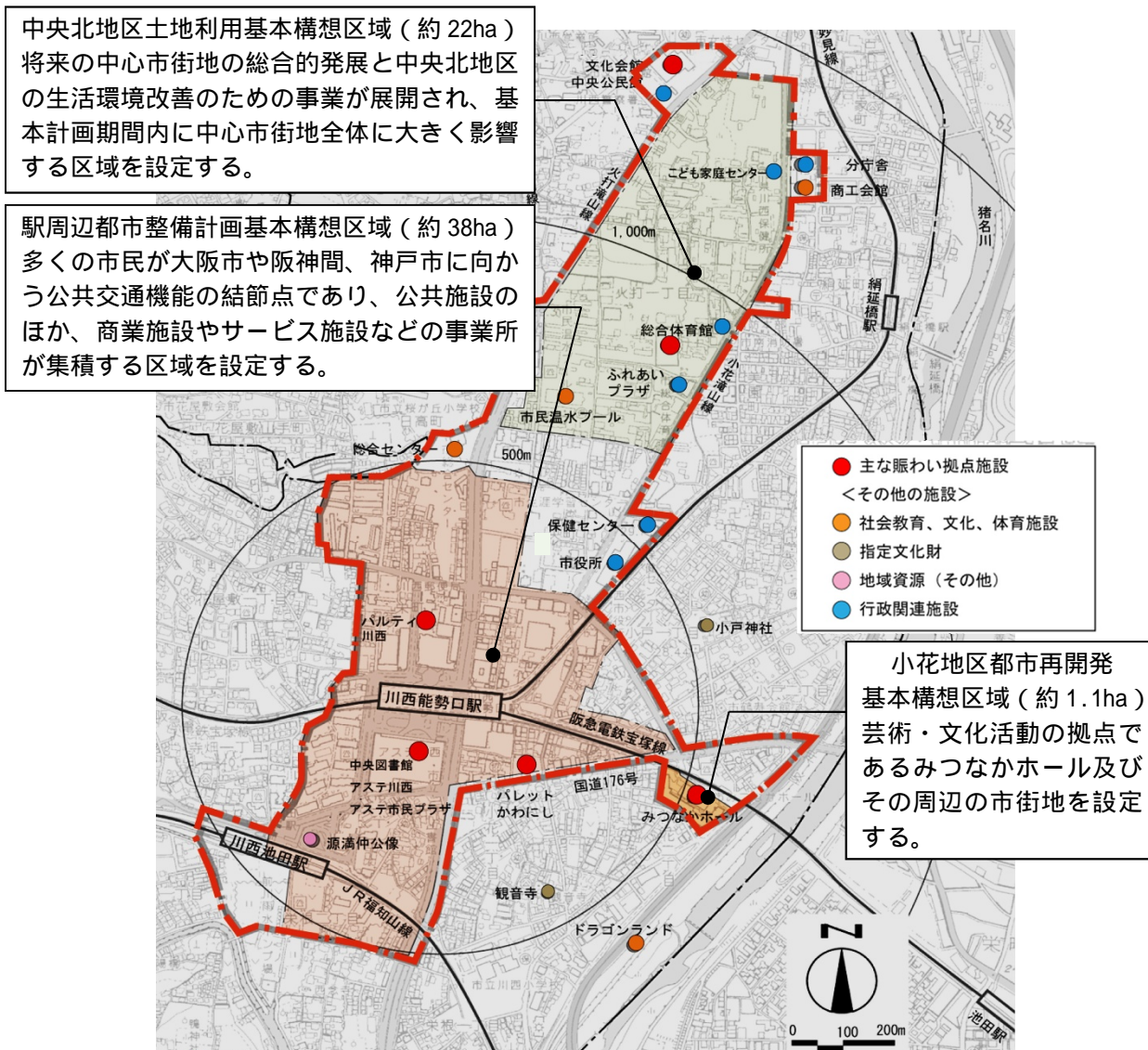
計画期間

平成 22 年 11 月から平成 27 年 3 月まで

区域面積

約 80ha

中心市街地活性化に関する基本的な方針に基づいて、多彩な事業が展開される駅周辺都市整備基本構想区域（約 38ha）および小花地区都市再開発基本構想区域（約 1.1ha）と将来の中心市街地の総合的発展のための土地利用構想が推進される中央北地区土地利用基本構想区域（約 22ha）をつなぐ旧市街地（約 16.9ha）を含め、約 80ha を設定した。



中心市街地活性化の基本理念

『ハート＆アートな街 かわにしのせぐち』

中心市街地活性化の基本方針

買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす

中心市街地は公共交通機関の結節点であり、幅広い世代の来街者が集まるような機能が集積しているにもかかわらず、来街者を取り込めていない状況にあった。

そのため、再開発ビルなどのリニューアルや魅力的なテナント誘致、駅周辺のバリアフリー化や、子育て世代をサポートする育児支援施設の充実などにより、あらゆる世代が楽しめることのできる活気のあるまちの創出をめざすこととした。

訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす

川西能勢口駅周辺の鉄道駅の1日あたり約14万人の乗降客の多くは、鉄道やバスを利用して大阪市や阪神間、神戸市方面へ通過しており、まちなかに立ち寄らず、まちを回遊することや滞留することが少ない状況にあった。

そのため、再開発ビルのリニューアル、かわにしにぎわい創出イベント事業の実施による活性化のためのイベント事業の創出、バリアフリーの推進、朝市などのイベントを実施することにより、回遊性を高めることで、あらゆる世代が楽しみながら回遊したくなるにぎわいのまちの創出をめざすこととした。

居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす

中心市街地は公共交通機関の結節点であり、多世代の来街者が集まる機能が集積しているものの、公共施設への動線がわかりにくい、展示場やホールなど文化活動の発信スペースが不足している、駐車場へのアクセスがわかりにくい、中心市街地を活性化するためのまちづくり活動が連携していないなど、魅力的な中心市街地として、市民満足度は高くない状況である。

そのため、魅力ある中心市街地をめざし、地元産品の販売や地元産品を活用した商品の開発・PRの推進、バリアフリーの推進などを通じて、市民満足度を高めるとともに、市街地再開発事業などによる住宅整備などにより、高齢化社会を見据えた街なか居住を誘導するなど、あらゆる世代にとって安全で便利なまちをめざすこととした。

中心市街地活性化の目標

魅力的で活気のある『かわにしのせぐち』の創造

目標設定の考え方

中心市街地活性化基本計画の施策を実施しない場合、減少傾向が続くと想定して推計した平成 26 年度の年間商品販売額（小売業）に、再開発ビルのリニューアルなどによる商業環境の整備、子育て支援の充実やまちなか居住の推進、さまざまなイベントなどの実施による相乗効果を踏まえた年間商品販売額（小売業）を加算した値を、目標値として設定した。

目標達成のための総括表 年間商品販売額（小売業）

項目	増加の要因等	増加額等
現況	平成 21 年度の年間商品販売額（小売業）	535.93 億円
計画	アステ川西地下 1 階リニューアル事業による効果	18.31 億円
	アステ川西の来館者が増えることによる上層階への噴水効果	3.93 億円
	アステ川西大規模改修事業による効果	5.19 億円
	川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業の効果	6.21 億円
	子育て支援などの都市福利による共稼ぎ家庭の買い物による効果	0.72 億円
	居住人口の増加による効果	2.42 億円
	増加要因等の合計 = + + + + +	36.78 億円
施策を実施しない場合の平成 26 年度の年間商品販売額（小売業）の推計値		503.32 億円
平成 26 年度の年間商品販売額（小売業）の目標値		540.10 億円
	: 503.32 億円 + 36.78 億円 = 540.10 億円	

楽しみながら回遊したくなる『かわにしのせぐち』の創造

目標設定の考え方

中心市街地活性化基本計画の施策を実施しない場合を想定して推計した平成 26 年度の歩行者通行量（休日）に、かわにしにぎわい創出イベント事業などによるまちを回遊したくなる環境や、魅力的な商業環境の整備、子育て支援の充実やまちなか居住の推進などによる相乗効果を踏まえた歩行者通行量（休日）を加算した値を、目標値として設定した。

目標達成のための総括表 歩行者通行量（休日）

項目	増加の要因等	増加額等
現況	平成 21 年度の歩行者通行量（休日）	56,368 人
計画	市街地再開発事業などの実施による効果	3,566 人
	居住人口の増加による効果	1,768 人
	かわにしにぎわい創出イベント事業の実施による効果	554 人
	回遊動線の整備や案内板の設置、サイン案内の整備などによる効果	564 人
	増加要因等の合計 = + + +	6,452 人
施策を実施しない場合の平成 26 年度の歩行者通行量（休日）の推計値		55,827 人
平成 26 年度の歩行者通行量（休日）の目標値 : 55,827 人 + 6,452 人 = 62,279 人		62,279 人

また、各目標数値の活性化状況を計るための参考指標として、人がどれだけまちなかに滞留しているかを確認するために、平均滞留時間の増加を参考指標として設定した。

目標達成のための総括表 平均滞留時間

項目	増加の要因等	増加額等
現況	平成 21 年度の平均滞留時間(平成 17 年のかわにし TMO 調査の数値を採用)	2.20 時間 (132 分)
計画	かわにしにぎわい創出イベントの実施や「ついで買い」による効果	0.60 時間 (36 分)
施策を実施しない場合の平成 26 年度の来街者の平均滞留時間		2.20 時間 (132 分)
平成 26 年度の来街者の平均滞留時間の目標値 : 2.20 時間 + 0.60 時間 = 2.80 時間		2.80 時間 (168 分)

成果指標

基本的な方針	中心市街地の活性化の目標	目標指標	1期基準値	1期目標値
<p>買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす</p> <p>訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす</p> <p>居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす</p>	魅力的で活気のある『かわにし の せ ぐ ち』の創造	年間商品販売額（小売業）	（平成 21 年度） 535.93 億円	（平成 26 年度） 540.10 億円
	楽しみながら回遊したくなる『かわにし の せ ぐ ち』の創造	休日の歩行者通行量	（平成 21 年度） 56,368 人	（平成 26 年度） 62,279 人
		来街者の平均滞留時間（参考指標として）	（平成 21 年度） 2.20 時間 （132 分）	（平成 26 年度） 2.80 時間 （168 分）

(2) 活性化事業の実施状況

38 事業のうち、完了・実施中 29 事業 未実施 9 事業

完了と実施中をあわせて 29 事業(内、ハード事業が 9 事業、ソフト事業が 20 事業)に取り組んできた。

中心市街地は、大型商業施設が集積する地域であり、これまで活発な商業活動が展開されてきたが、長引く景気の低迷や市周辺部に大規模商業施設の新規出店が相次いだことなども起因して、小売業の商店数と年間商品販売額については、減少傾向が続いており、商業活動は厳しい状況となっている。

こうした状況から、アステ川西のリニューアルなどのハード整備に加えて、「かわにしにぎわい創出イベント」として「きんたくんバル」「まちなか美術館 きんたくんギャラリー」「きんたくんゼミナール」などといった商業振興のためのソフト事業を展開してきた。

前基本計画に掲載している事業の進捗状況

	事業数	実施数	未実施数	実施率
1. 市街地の整備改善のための事業	8	3	5	37.5%
2. 都市福利施設を整備する事業	8	7	1	87.5%
3. 居住環境の向上のための事業	4(3)	2(1)	2(2)	50.0%
4. 商業活性化のための事業	21(2)	18	3(2)	85.7%
5. 1 から 4 までに掲げる事業と一体的に推進する事業	3(1)	0	3(1)	0%

再掲事業 6 事業を含む。() 内が再掲事業の数字

1. 市街地の整備改善のための事業

事業名	実施状況
01: 川西能勢口駅東地区第 2 工区優良建築物等整備事業	未実施
02: 中央北地区特定土地区画整理事業	実施中
03: 都市計画道路火打滝山線東側歩道拡幅事業	未実施
04: 都市計画道路せせらぎ遊歩道新設事業	実施中
05: 回遊動線形成促進事業	未実施
06: 川西能勢口駅東整備構想策定事業	実施中
07: みつなかホール周辺(仮称)花の道及び駐車場整備事業	未実施
08: みつなかホール・ドラゴンランドへの動線整備計画の検討	未実施

2．都市福利施設を整備する事業

事業名	実施状況
09：情報配信システム構築事業	未実施
10：ファミリーサポートセンター事業	実施中
11：一時子ども預かり所開設事業	完了
12：地域子育て支援事業	実施中
13：市立中央図書館子ども読書サポーター事業	実施中
14：コミュニティ・スペースにぎわい空間整備事業	完了
15：交通バリアフリー重点整備地区基本構想に基づく道路特定事業	完了
38：キセラ川西プラザ整備事業	実施中

3．居住環境の向上のための事業

事業名	実施状況
01：川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業（再掲）	未実施
02：中央北地区特定土地区画整理事業（再掲）	実施中
05：回遊動線形成促進事業（再掲）	未実施
16：パルティ川西リニューアル支援事業	完了

4．商業活性化のための事業

事業名	実施状況
07：みつなかホール周辺（仮称）花の道及び駐車場整備事業（再掲）	未実施
09：情報配信システム構築事業（再掲）	未実施
17：川西まつり	実施中
18：猪名川花火大会	実施中
19：源氏まつりミニイベント	実施中
20：みつなかオペラ	実施中
21：アステ川西地下1階リニューアル事業	完了
22：アステ川西大規模改修事業	未実施
23：パルティ川西A&Hデザイン構築事業	完了
24：アステ川西バイク・自転車駐輪対策事業	完了
25：かわにしにぎわい創出イベント事業	実施中
26：かわにし朝市	実施中

27：光のオブジェ展	実施中
28：JAM・HOP・CARNIVAL	完了
29：アステかわにし繁昌亭	実施中
30：夢宿フォトコンテスト	完了
31：花と緑のアステ川西プロジェクト	実施中
32：イチジクの即売会	実施中
33：桃の即売会	実施中
34：かわにし寄席	実施中
35：金太郎プロジェクトの実施	実施中

5．1 から 4 までに掲げる事業と一体的に推進する事業

事業名	実施状況
08：みつなかホール・ドラゴンランドへの動線整備計画の検討（再掲）	未実施
36：駐車場ナビゲーションシステム構築事業（その 2）	未実施
37：川西能勢口駅周辺と中央北地区を回遊するシャトルバス運行の検討	未実施

(3) 目標の達成状況

目標 魅力的で活気のある『かわにしのせぐち』の創造

未達成

年間商品販売額（小売業） 平成 21 年度：536 億円
平成 25 年度：490 億円【平成 26 年度目標：540 億円】

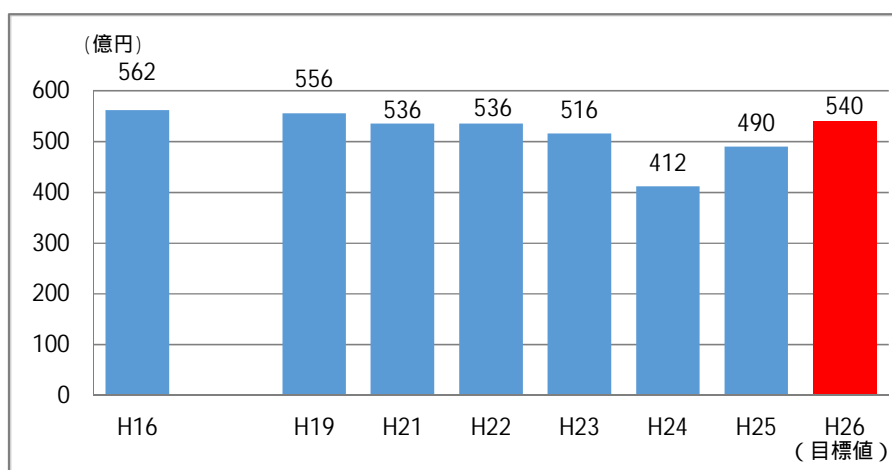
数値分析

長引く景気低迷や消費者の低価格志向等が進んだことに加えて、小売商店数が年々減少しており、さらに、計画期間内に周辺都市で大規模商業施設が次々に建設された。

中心市街地においても、旧ジャスコが撤退したことや、アステ川西の地下 1 階に誘致した店舗がわずか 2 年未滿で撤退し、再オープンまでに期間を要したことなどから、年間商品販売額（小売業）が減少した。

また、前基本計画では、居住人口を増加させることで、購買需要を増やすとしていたが、実際は約 8 千人で横ばいに推移しており、目標が達成できなかった。

年間商品販売額（小売業）



出典：商業統計調査（平成 19 年度まで） 経済センサス活動調査（平成 24 年度） 川西市による聞き取り調査（平成 21～23、25 年度） 数値は、聞き取り調査により、過去の商業統計調査結果から推計した結果

目標 楽しみながら回遊したくなる『かわにしのせぐち』の創造

達成

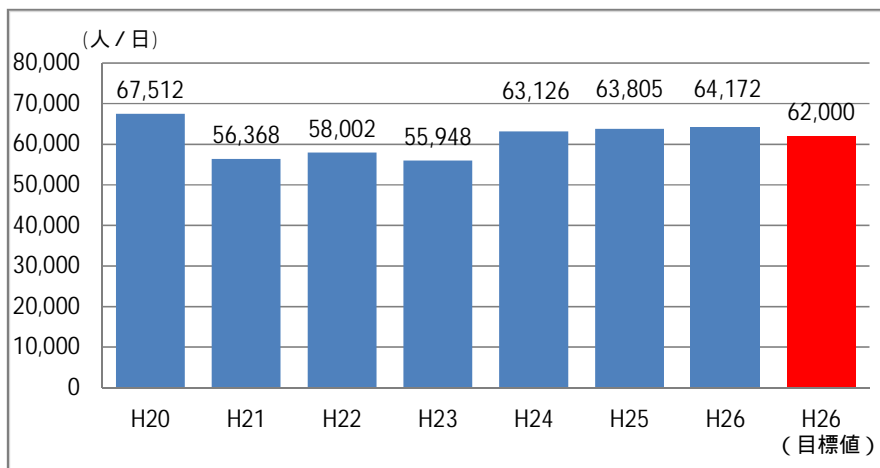
歩行者通行量（休日） 平成 21 年度：56,368 人/日
平成 26 年度：64,172 人/日【平成 26 年度目標：62,000 人/日】

数値分析

中心市街地での民間事業者による住宅施設整備やソフト事業の実施、アステ川西地下 1 階リニューアルの実施に加えて、平成 25 年 10 月に旧ジャスコ跡地にイオンリカー&ビューティー川西店が開業したことなどにより、川西能勢口駅からアステ川西へ

通じる歩行者ポイントと旧ジャスコ北東側の歩行者ポイントで通行量が増加した。

歩行者通行量（休日）



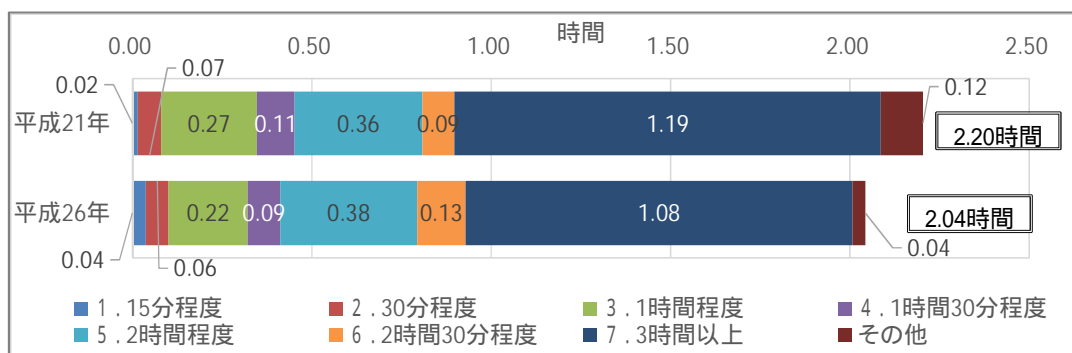
未達成

参考指標：来街者の平均滞留時間
 平成 21 年度：2.2 時間
 平成 26 年度：2.04 時間【平成 26 年度目標：2.8 時間】

数値分析：

各種イベント事業を展開することで、まちの魅力を知ってもらい、まちを回遊することで滞留する時間が増加することを想定していたが、実際には最寄品の購入だけのためにまちに立ち寄り人が多く見受けられた。商業施設は数多くあるが、エンターテインメント施設や憩いの場などが数少ないために、滞留時間の増加に結び付けることができなかった。

滞留時間の比較（平成 21 年度と平成 26 年度の比較）



出典：来街者アンケート調査

[6] 評価と課題

(1) 評価

前基本計画に基づいた活性化の取り組みを次のように評価する。

中央北地区において、計画期間内に区画整理が着実に進捗しており、次期計画期間内において、ハード事業に確実に着手できる見込みとなった。

中央北地区では、前基本計画に掲げた「中央北地区特定土地区画整理事業」などの事業が着実に進捗しており、次の基本計画期間内には、中央公園やキセラ川西プラザなどのハード事業のほとんどが着手可能な状況となり、活性化に大きく貢献することが期待される。

年間商品販売額（小売業）が減少し、来街者の平均滞留時間は横ばいの状況であったことから、計画期間中の取り組みが、商業の振興につながっていない。

歩行者通行量が増加に転じ、目標を達成したものの、年間商品販売額（小売業）と平均滞留時間の目標が達成できなかったことから、中心市街地が通過点になっているにすぎず、来街者が中心市街地内の商業施設や飲食店に立ち寄る割合がまだまだ少なく、歩行者通行量の増加が商業の振興につながっていない状況である。

活性化事業における組織間の連携が不十分であった。

歩行者通行量は増加したものの、来街者の平均滞留時間と年間商品販売額（小売業）を増加させることができなかったのは、中心市街地内にある商業関係団体の組織間の連携が不十分であったことに加えて、リーダーとなる人材やまちづくりに関する専門知識を持った人材が不足していることが要因の一つであったと考えられる。

(2) 課題

前基本計画期間における歩行者通行量の増加など、川西能勢口駅周辺での活性化の成果を活かしながら、新基本計画では、継続して次の課題に対応していく。

キセラ川西の有効活用

現在、事業が進行中のキセラ川西において、中心市街地の新たな魅力を生み出すとともに、歩行者等の流れを川西能勢口駅周辺と相互に回遊させる仕組みを構築していくことが必要になる。

また、川西能勢口駅周辺のにぎわいとキセラ川西から新しく生まれるにぎわいと連携を図ることで、来街者や居住者に新しい魅力を与え、「訪れたい」、「住みたい」まちをめざしていく必要がある。

来街者と居住者にとっての魅力の向上

歩行者通行量は増加してきており、にぎわいは回復しつつある。一方で、年間商品販売額（小売業）は減少、来街者の平均滞留時間はほぼ横ばいという結果となった。

そのため、来街者のニーズに即した多様なイベントの開催を検討し、歩行者等の通行量をさらに増加させていくとともに、利便性の向上やサービス機能を強化するほか、環境に配慮した暮らしやすいまちづくりを行うことで居住人口を増加させ、居住者による購買需要の増加につなげていく必要がある。

タウンマネジメント機能の強化

より効果的に活性化を進めるためには、商業者や商店会、商工会と市が相互に連携・協力しながら活性化に取り組む必要がある、そのための仕組みづくりが重要になる。

具体的には、現在、実施しているソフト事業に加えて、特色あるイベントの企画・立案・実施やPRを行うとともに、将来のまちづくりリーダーの発掘・育成など、タウンマネジメント機能を強化する必要がある。

[7] 基本計画における基本方針

(1) 活性化の基本的な考え方

認定を受けてから約4年間、活性化に向けた取り組みを実施した結果、川西能勢口駅周辺を中心に、活性化の効果が徐々にあらわれてきている。

新基本計画期間中には、現在、事業が進捗しているキセラ川西において、住宅施設、医療施設及び大規模集客施設などの都市機能が集積する次世代型複合都市の形成に取り組むとともに、川西能勢口駅周辺との歩行者等の流れを相互に回遊させることによって、中心市街地全体の活力の創出をめざす。

そのためにも、商業者や商店会、商工会と市が相互に連携・協力しながら活性化に取り組むことによって、にぎわいを創出し、歩行者等の通行量のさらなる増加を図るとともに、居住環境を向上させることなどによって、より多くの人を中心市街地に居住させることで、人口の増加を図る。そして、より多くの来街者を中心市街地に呼び込み、長く滞留させることで、商業の振興につなげていく。

(2) テーマ

川西能勢口駅周辺とキセラ川西を核とする中心市街地エリア全体がにぎわいにあふれるとともに、低炭素のまちづくりを通じて、環境に優しく、暮らしやすいまちをめざすという意味から、中心市街地活性化のテーマを「活力があり、環境にやさしく、暮らしたくなる中心市街地の創造」とする。

テーマ

活力があり、環境にやさしく、暮らしたくなる中心市街地の創造

(3) 基本方針

新基本計画における基本方針は、前基本計画の評価と課題から、次の3つを設定する。

「基本方針 市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまちをめざします」

「基本方針 生活関連サービスが充実した、環境にやさしい、住みやすいまちをめざします」

「基本方針 個々の人や組織をつなぎ、多様な取り組みを通じて活性化を図ります」

基本方針

基本方針

市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまちをめざします

中心市街地のにぎわいの核として、前基本計画で実施してきた地域の活性化と商業振興を主な目的としたソフト事業を継続して実施することによって、川西能勢口駅周辺のにぎわいをさらに高める。

また、キセラ川西において、健康・医療・福祉、芸術・文化・スポーツなどの市民活動の場となる新たな核づくりを進める。

さらに、川西能勢口駅周辺とキセラ川西の両地区をつなぐ、環境にやさしく便利な交通ネットワークを検討し、回遊性を創出する。

基本方針

生活関連サービスが充実した、環境にやさしい、住みやすいまちをめざします

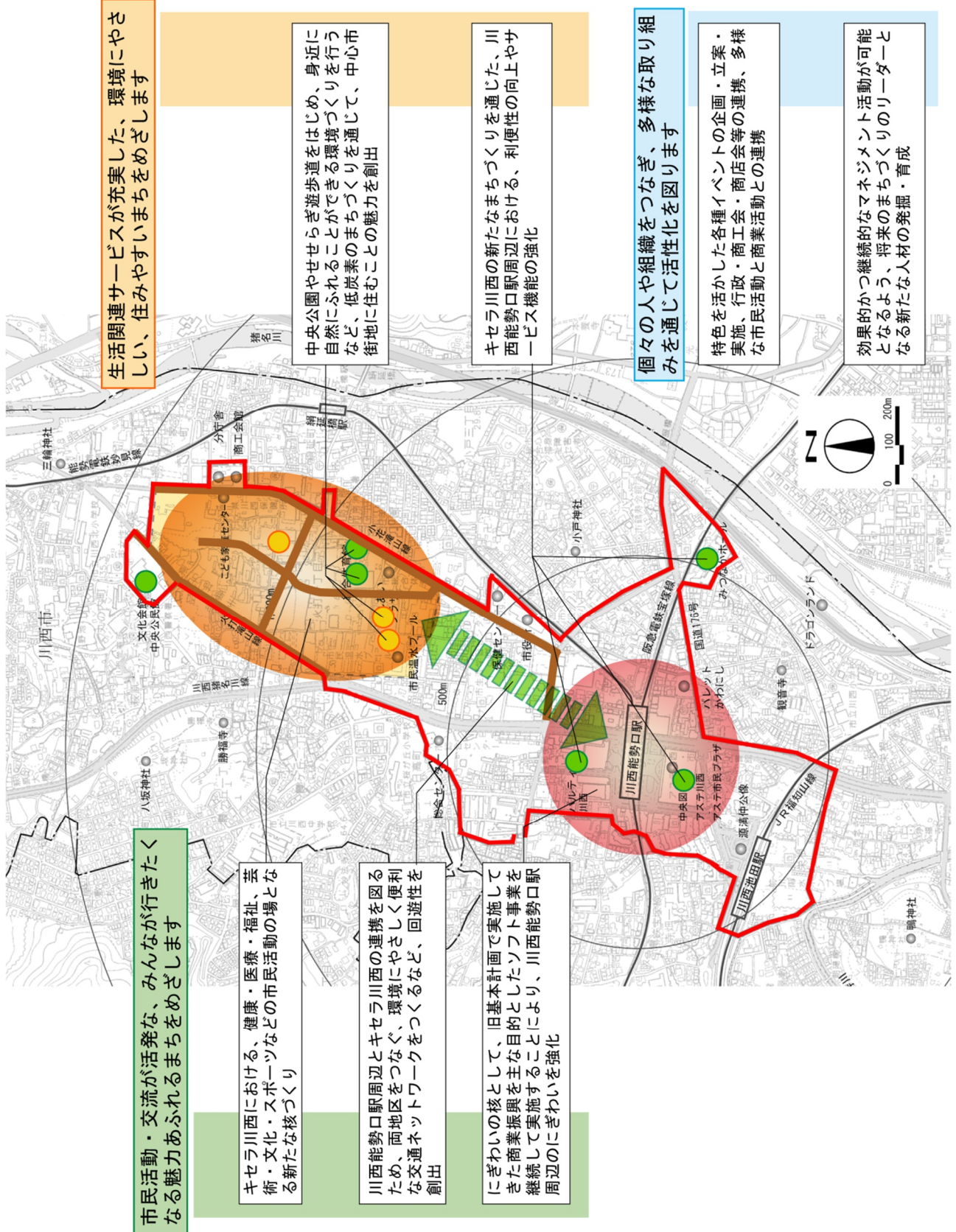
川西能勢口駅周辺において、高齢者でも安心して生活できる環境づくりを整えるとともに、キセラ川西において、利便性の向上やサービス機能を強化するとともに、中央公園やせせらぎ遊歩道をはじめとした、身近に自然にふれることができる環境づくりを行うなど、便利で住みやすいまちを創出することによって、中心市街地に住むことの魅力を向上させ、居住人口の増加を図る。

基本方針

個々の人や組織をつなぎ、多様な取り組みを通じて活性化を図ります

特色を生かした各種イベントなどのソフト事業の企画・立案・実施、行政・商工会・商店会等の連携、多様な市民活動と商業活動との連携、川西能勢口駅周辺とキセラ川西との回遊性の創出などを図り、商業の活性化につなげていくとともに、効果的かつ継続的なマネジメント活動が可能となるよう、将来のまちづくりのリーダーとなる新たな人材の発掘・育成に取り組むなど、タウンマネジメント機能を強化する。

方針図



中心市街地の現状

川西市の概況	中心市街地の概況
<p>大阪市や神戸市などの大都市に近く、鉄道網の形成とともに発達し、中・北部に大規模な住宅団地を有する住宅都市。 まちのシンボルである猪名川をはじめ、自然資源に恵まれた都市。</p>	<p>川西能勢口駅周辺は、鉄道・バス等の公共交通機関の結節点であり、鉄道の立体交差化事業と全国に先駆けた市街地再開発事業を通じて、広域的商圈を有する大規模商業施設をはじめ、みつなかホール等の文化施設、市役所等の行政機関といった公共施設が多数集積。 川西能勢口駅周辺とともに、中心市街地を構成するキセラ川西において、土地区画整理事業による新しいまちづくりが進行中。</p>

中心市街地の現状に関する統計的なデータの把握・分析

<p>人口：高齢化の進行により、将来的には人口が減少する見込み。 産業：小売業を中心に、2割を超える事業所が中心市街地に集積。 小売業の商店数や年間商品販売額等は減少傾向。 歩行者通行量：これまでの減少傾向に歯止めがかかり、平成22年度以降は増加傾向。 公共交通：鉄道乗降客数は微減、バス乗降客数は増加傾向。</p>
--

市民ニーズ等の把握・分析

<p>来街目的の約4割は「食料品の買い物」。 中心市街地のイメージは「利便性の高いまち」「整備されたまち」「住みたくなるようなまち」。 中心市街地に求める機能は「シネコン」ほか、「健康ランド・温浴施設」「公園・緑地」「飲食店」と、エンターテインメント施設や憩いの場の空間。 滞留時間は、平均2.04時間(122分)。「楽しみながら回遊したくなる街になったか」という問いに対し、5割近くの回答者(休日の来街者)が「そう思う」と回答。</p>

前川西市中心市街地活性化基本計画等に基づく取組みの把握・分析

<p>キャッチフレーズ:『ハート&アートな街 かわにしのせぐち』</p>	
<p>全38事業 完了・実施中29事業 未実施9事業</p>	
<p>アステ川西など老朽化の進む商業施設のリニューアルをはじめ、「かわにしにぎわい創出イベント」など、公共施設や民間施設、広場等を活用して、地域の活性化と商業振興を主な目的とした商業、芸術・文化イベントを積極的に実施。</p>	
<p>基本方針1 買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす</p>	
<p>⇒ 目標 魅力的で活気のある『かわにしのせぐち』の創造</p>	
未達成	<p>年間商品販売額(小売業) 平成21年度:536億円 平成25年度:490億円 平成26年度目標:540億円</p>
未達成	<p>(参考指標)来街者の平均滞留時間 平成21年度:2.2時間 平成26年度:2.04時間 平成26年度目標:2.8時間</p>
<p>基本方針2 訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす</p>	
<p>⇒ 目標 楽しみながら回遊したくなる『かわにしのせぐち』の創造</p>	
達成	<p>歩行者通行量(休日) 平成21年度:56,368人/日 平成26年度:64,172人/日 平成26年度目標:62,000人/日</p>

中心市街地の課題

キセラ川西の有効活用

現在、事業が進捗しているキセラ川西のまちづくりにおいて、新たな魅力を生み出すとともに、川西能勢口駅周辺との歩行者等の流れを相互に回遊させることによって、その事業効果を活性化に活かしていく必要がある。

来街者と居住者にとっての魅力の向上

歩行者通行量は増加してきており、にぎわいは回復しつつある一方で、年間商品販売額（小売業）は減少し、来街者の平均滞留時間は横ばいであった。

そのため、来街者のニーズに即した多様なイベントの開催を検討し、歩行者等の通行量をさらに増加させていくとともに、利便性の向上やサービス機能を強化するほか、環境に配慮した暮らしやすいまちづくりを行うことで居住人口を増加させ、居住者による購買需要の増加につなげていく必要がある。

タウンマネジメント機能の強化

事業者や商店会、商工会と市が相互に連携しながら活性化に取り組む必要があり、現在あるイベントに加えて、特色ある各種イベントの企画・実施、将来のまちづくりリーダーの発掘・育成など、タウンマネジメント機能を強化する必要がある。

テーマ

活力があり、環境にやさしく、暮らしたくなる中心市街地の創造

活性化の基本方針

基本方針

市民活動・交流が活発な、みんなが行きたくなる魅力あふれるまちをめざします

基本方針

生活関連サービスが充実した、環境にやさしい、住みやすいまちをめざします

基本方針

個々の人や組織をつなぎ、多様な取り組みを通じて活性化を図ります

前基本計画による取り組みの評価

中央北地区において、計画期間内に区画整理が着実に進捗しており、次期計画期間内において、ハード事業に確実に着手できる見込みとなった。

○年間商品販売額（小売業）が減少し、来街者の平均滞留時間は横ばいの状況であったことから、計画期間中の取り組みが、商業の振興につながっていない。

○活性化事業における組織間の連携が不十分であった。